日本医史学雑誌　第68巻第3号（2022）　246–274

崇蘭館往来
――宮廷医福井氏の天保年間の記録――

町　泉寿郎

二松学舎大学

解　題

底　本

本稿は，国文学研究資料館に所蔵される『崇蘭館往来』1冊（請求記号：MX121-10，新日本古典籍総合データベース公開，https//kotenseki.nijl.ac.jp/biblio200018543）を翻刻してその内容を紹介するものである．

底本の伝来に関しては，巻頭第一丁表と巻末の裏表紙見返に各一顆「三井文庫」の朱印が捺されている．また表紙見返しに「文部省図書印」の朱印が捺され，表紙に貼付された請求記号ラベルに「史料館」とある．このことから，三井文庫から旧（文部省）史料館に伝えられた資料であることが分かる．

外題は茶色の表紙に「天保五甲午正月始至八年丁酉十二月／崇蘭館往来」と打付書に墨書されている．内題はない．本文は，無罫の用紙48枚を袋綴じにして毎半丁16行で記されている．全体を通して一筆で書かれ比較的整然と書写されていることから，後に一定の整理が加えられたもののように見える．文言を推敲して修正したと認められる箇所もある．

概　要

本資料は，江戸後期京都の名医福井榕亭の門人であり，天保6年10月から福井家の執事役を務めた鎌田廉吉によって書留められた天保5年から同8年にかけての4年間（1834～1837）にわたる記録である（冒頭に一部天保4年の記録を含む）．日を追って書かれているが，記録のある日付はとびとびである．

その理由としては，鎌田廉吉が福井家の屋敷崇蘭館に赴いた日，赴く予定であったが事情により不参となった日，福井家からの来客があった日，福井家への入門希望者があった日，福井家との間に手紙の往・復があった日など，福井崇蘭館と何らかの関係がある記事のみを書留めた記録だからである．書名の「崇蘭館往来」も，福井家と鎌田廉吉との間に交わされた書簡（往来）が数多く収録されていることによる命名と考えられる．

編　者

本資料の編者である鎌田廉吉（1798～1859）は，京都の医師鎌田碩庵（1768～1839，名昌長）の子．父碩庵は小野蘭山に本草を学び，荻野元凱と親交があり，傍ら小沢蘆庵に学んで和歌に堪能で，また謡曲を能くし，晩年は易学を好んだ（『日本医譜』巻42等）．

廉吉は名は昌言，苟完と号し，父の意向により18歳で福井榕亭に入門し，1828年に家督を継ぎ三条東洞院において開業した．本資料の記事から，廉吉が父に似て謡曲を得意とし，また漢詩や狂歌など文芸にも通じていたことが分かる．本資料以外の鎌田廉吉の著作としては，門人五十嵐篤好との間に歌道に関する質疑応答をまとめた『嵐鎌問答書』（国文学研究資料館所蔵）がある．

主要登場人物

本資料に登場する主要人物を簡単に紹介しよう．鎌田廉吉の師家福井家とその一族については，『京都の医学史』（思文閣出版，1980年）等に拠れば，以下のような人物が挙げられる．各人の住所は『平安人物誌』（1838年版）に拠った．

老師・師翁・老先生，或いは引用された書簡のなかで大先生と呼称されるのは，福井丹波守（1753～1844）．名は需，字は光亨，通称は終吉，別号榕亭．榕亭は朝廷に奉仕する典薬寮医師として，従六位下典薬少允（1804）を振り出しに，正六位下典薬大允・丹波守（1806），従五位下医博士（1813），従五位上（1816），正五位下（1817），従四位下（1821），従四位上（1830），正四位下（1833），正四位上（1842）に累進した．50歳を越えて初めて任官したが，医療者としての実力に加えて，長寿を保ち異例の昇進を遂げた．本資料中では正四位下推叙（天保4年6月27日，表紙見返）と御門内杖御免（天保5年12月24日，8a）の記事が見えている．榕亭・棣園父子が住居する崇蘭館は，御所の西側に当たる上京の黒門通元誓願寺南側にあった．

棣園君・棣園先生と記されるのは榕亭の長男である福井近江守（1783～1849）．名は晋，通称は貞吉，別号棣園．棣園は父榕亭とともに典薬寮医師となり，従六位上近江介（1815），正六位下（1822），従五位下近江守（1829），玄蕃権助（1833），従五位上（1834），正五位下（1838），従四位下（1840），典薬少允（1843），従四位上（1849）に累進した．本資料中では，従五位上推叙（天保5年5月24日，4a）の記事が見えている．

鎌田廉吉が「君」付けで呼称する人物には桂亭・達所・韋繭・潤之介・粂吉・孝之介・精市（精一郎）・新三郎といった人物らがあり，これらは福井一族の人々と考えられる．

達所君と記されるのは榕亭の二男で山本家を継いだ山本安房介（1795～1868）．名は随，字は有功，別号達所．崇蘭館から至近の上京の元誓願寺通黒門東側に住んでいた．父・兄とともに典薬寮医師となり，従六位上安房介（1830），正六位下（1834），従五位下安房守（1841），従五位上大和守（1846），大学権助（1850），正五位下典薬大允（1855），従四位下（1855）に累進した．本資料中では，正六位推叙（天保5年5月24日，4a）の記事が見えている．

榕亭の三男である荻野越中介（1798～1835）は名は徳咸．荻野河内守（徳興，鳩峰）の養子となり，典薬寮医師となったが（1825従六位上越中介，1832正六位下），天保6年12月12日に38歳で病歿した（22a）．同17日に執り行われた葬儀の際の葬列が比較的詳しく記されている（23a・23b）．荻野邸は中京の新町通三条南側にあった．韋繭と号したのはこの人物ではないかと思われる．遺児新三郎は福井家に引き取られたらしい（49a）．

楓亭の末子，榕亭の異母弟で，中立売通小川西入に福井家の分家を立て，中立売と呼ばれているのは福井駿介である．名は泰．桂亭と号したのはこの人物ではないかと思われる．嗣子は精一郎といった．

江左氏（江佐とも）は，榕亭の妻の実家で，円満院侍医を勤めた家柄．江左氏が崇蘭館に頻繁に出入りしており，「君」付けで呼称され，榕亭と近い関係が窺える状況から考えて，榕亭の子が江左家を継いでいた可能性がある．

巻末近い天保8年12月7日の条に，榕亭が16人の子宝に恵まれ，それぞれが結婚して子を生し子孫が合わせて59人もあると福井一族の隆盛を記している（48b）．学徳を兼備した京都医界の長者としての福井榕亭の存在がよく理解できる．

この他に，天保8年の始め，榕亭が小野蘭山をその命日に当たる正月27日に供養していることも，従来注目されていない福井家と蘭山学統との繋がりの深さを窺わせる記事である（39a）．

師家以外で鎌田廉吉が「先生」と呼称する人物としては，小野蘭山門の水野皓山（1777～1846，名広業，称源之進）の名が最も多く見える．

津島先生と記される本草学者津島如蘭（1701～1755，恒之進）は，この時点で歿後80年が経過している人物であるが，榕亭からの伝聞として父楓亭が津島如蘭に学恩を感じていたことが分かる（10a）．これに限らず，榕亭の懐古談はいずれも興味深いものが多い．

他に「先生」と呼称されている人物としては，河内某，浜島志摩守（高橋清平，有職家）らが挙げられる．「伊藤先生」と記されているのは，榕亭の女栄が嫁した儒者伊藤東峰（1799～1845，古義堂5世）のことであろう．

福井榕亭門下で鎌田廉吉の同輩にあたる人物た

ちのうち，事蹟が判明した者を挙げれば次の通りである．

甲田将監，天保6年9月10日歿，鎌田廉吉の前任の福井家執事役．甲田弘吉は将監の子．

今枝譲助（1803～1852）名潜，号夢梅．詩書を能くし，画家山本梅逸と親交があった．

多田哲吉，榕亭門の多田樗亭（1830年歿）の子．

白井赤水（1762～1839）名惟徳，称元蔵，楓亭・榕亭門．詩書を能くした．

この他に松木子敬・川端献吉・小山文輔・谷志津馬・渡邊寿真・隅野宰助らがしばしば見出される同輩の名である．

鎌田廉吉は，執事役の前任者甲田将監が病歿したため，その後任を福井家より委嘱されて天保6年10月から務めることになった（16a）．執事役とは入門者の取次など福井門における渉外の役割を担うものであったと考えられる．

これとは別に，福井家内では勘定場という金銭の出入りを取り扱う事務所があり，その事務方の責任者も存在した．姫井（＝飛馬井）圭造という人物が勘定場を預かっていた．

記載内容

本資料に記載された内容は，榕亭への診察依頼の取次や入門者の取次に関する記事を除けば，具体的な医療や医学に関する内容は必ずしも多くない．既に80歳を越している榕亭は断り切れない場合以外は診察依頼を断っており，嗣子棣園は宮中への出仕に多忙で，宮廷医としての活動が主たる福井父子にとって自宅崇蘭館における医療活動は比較的少ないように見える．

(1) 注目される医薬関係の記事としては，幕府から朝廷に献上される朝鮮人参の薬効を宮廷医の福井・荻野・高階に試みさせることになり，その朝鮮人参に関する言及がある（天保5年9月1日，6a）．浜島志摩守と水野皓山が『和名鈔』所出の植物を集めた本草学の展観会を開いたので，福井一族と門人らが参観した記事がある（天保7年9月12日，35b）．また同門の医家中川周助が疥癬を患い小便赤渋渇・衝心の症状があった際，福井棣園が大犀角の服用を指示し，更に同門の隅野宰助が往診して加葶藶を提案したのに対して，加葶藶を止めて加石糕を主張して全快せしめたことは，鎌田廉吉の医療者としての力量を示すものと言えよう．

(2) 医療記事に比して，入門希望者に関する記事や年始・中元・歳暮・五節句の贈答および儀式，祭礼など年中行事に関する内容は比較的豊富である．入門時の契約・誓約の書式（17b）にも明記されているように，福井家では年始・中元・八朔・五節句の日に礼服を着用して師弟間で祝う行事があった．入門・寄宿の際に取り交わす「入門式并寄宿式」「寄宿請状之事」「寄宿一札之事」「入門六ヶ月餘之上制約」も，例えば同時期の京都の吉益塾（『備前岡山の在村医中島家の歴史』所収「京遊厨費録」思文閣出版，2015）などに比べて，鄭重でかなりコストもかかるものになっている．福井家入門時の儀式に使用する備品を取り扱う業者もあらかじめ定められていた（中長者町西洞院西の松屋又六）．

毎年5月15日の今宮神社の祭礼には，その神輿が福井家に渡御することが恒例となっており，この神事に合わせて福井家門人を集めた盛大な宴会が開かれている．天保8年5月に田安家当主の民部卿徳川斉位が歿して鳴物停止となり，神輿渡御も取りやめとなった際には「甚淋シ丶」（44b）と記されていることから，福井家出入の人々にとって待望のイベントであったことが窺える．

(3) 鎌田廉吉が執事役を担ってその窓口となった天保6年10月以降，同8年末までの入門者としては，次の10名が数えられる．藩医の方が多いものの，町医者の入門者も見出される．

①大川玄徳：上総吾妻川戸村の大川九功の子，天保6年12月2日入門．

②天羽玄圃：阿波国の書生，天保7年2月入門許可となるも親急病につき入門中止．

③森寧作：伊勢高田の松田祐庵の子，天保7年2月15日入門．

④大竹元浩：天保7年2月28日入門，遊蕩により翌8年2月13日に退塾処分となり，詫びを入れて同5月より再び通塾．

⑤沼波楨仲：尾張名古屋町医師，天保7年3月中

下旬入門.

⑥深海富士之助：丹波亀山，楓亭門人深海健三の子，天保7年7月11日入門.

⑦中馬春岱：摂津尼崎藩中馬玄岱の子，天保8年3月1日入門.

⑧和田左門：摂津尼崎藩医，天保8年3月10日入門.

⑨吉川玄叔：豊後佐伯藩医，天保8年9月9日に下立売の山本達所に入門.

⑩松原逸格：加賀前田美作守家臣，天保8年11月20日入門.

(4) 福井氏邸内の建物やその中の特定の室を記している記事としては，榕亭が福井邸を訪れた廉吉に面会する場所は通常「居間」である．ほかに「調合場」「診察間」の記載もある．「調合場」はもちろん薬剤を調合するためのスペースであるが，入門時に入門者が姓名等を記すためのスペースにも当てられている．

書室名が明記されている例では，「花南別墅」「蘭竹書屋」「千山万井楼」がある．千山万井楼のことは小島宝素撰『河清寓記』や川村竹坡撰「千山万井楼記」（浅田宗伯『皇朝医叢 続集』所収）にも見えるが，本資料によって庭が廻りを囲む三階建ての建築であったことが分かる．

併せて，最寄りの山本達所邸には「幽閑自適楼」という楼閣があり，詩会など文雅の交流の場となっている（7a）．

崇蘭館に貴顕が訪問した記録としては，天保7年3月19日に右大臣九条尚忠（1798～1871）が訪れた際には，書画を供覧している（28b）．

(5) 福井家の人々の趣味嗜好を窺うことができる記事としては，頻繁に能楽・素謡の催しが行われていることが指摘できる．『京都の医学史』（1292頁）に「家に能舞台を設け演能し，宮・堂上家らを招待した」とある通り，能役者・囃子方・狂言方が揃って能五番と狂言を上演している記録もあり，本格的に演能ができる施設が邸内に設けられていたことが窺える．能楽に関する記事が比較的詳しいのは，鎌田廉吉の嗜好も反映しているであろう．演能が4回（天保5年5月15日，天保6年正月25日，天保6年8月1日，天保7年4月28日），素謡の会が臨時開催のものや鎌田廉吉不参のものを含めて8回（天保5年8月3日，天保7年2月1日，天保7年5月15日，天保7年7月7日，天保7年10月2日，天保8年正月23日，天保8年2月9日，天保8年9月28日）開催されている．特に天保6年8月1日の演能は，御所で行われる演能の下稽古として開催されていることは注目される．

蹴鞠の催しもたびたび開かれている．

神事やその他さまざまな催事の際に提供された贅沢な食事も記録され，その他の平日に臨時に供される食事の記録も含めて，福井家の食生活がかなり豊かなものであったことが窺える．また，茶に関しては榕亭の父楓亭の時代に始まり，この時点で70年以上前から毎年自家製していることも知られる（12a）．

(6) 小島宝素『河清寓記』，渋江抽斎・森枳園『経籍訪古志』等に著録されて知られている崇蘭館所蔵の善本漢籍医書類に関する記事は必ずしも多くないが，書庫が完成したという記事が見え（天保5年5月5日，2b），具体的な書名を記している例を挙げれば次の通りである．

・『位記』嘉靖33年（1554）鈔写（4b）
・董立山『楽志論』巻子本（4b）
・小本『洗冤録』4巻（6a・6b）
・『（新渡）聖済総録』（12a）
・『利済十二種串雅編』写本新舶（24a）
・『三重韻』聞中和尚書入本，塩瀬家より譲渡（37b）
・『五車韻瑞』（48a）
・『唐雅同声』（48a）

他に書画・古器物類に関する記事を挙げれば次の通りである．

・（榕亭曾祖父）福井立仙の連歌（6b）
・烏丸光広の消息（6b）
・朱熹所蔵の硯（7a）
・池大雅の画帖（23b）
・室町時代 兆殿司の羅漢図（27a）
・九条尚忠画の鉄拐仙人（29a）
・明 張復の山水画（33a）
・海雲の山水画（35a）

鎌田廉吉は，張復の山水画幅について，榕亭が40年来これほどの美幅を見たことがないと述べた感想を記録しており，榕亭のコレクターとしての側面を彷彿とさせる．

なお，茶道具も福井家は大正9年3月の京都美術倶楽部における売立目録が残されており，数多く収集していたはずであるが，茶道具に関する記載は少ない．

(7) 福井氏の出遊記事としては，最も遠くに出かけた例が大津・三井寺の虫干しの参観（天保5年6月21日，5a）．龍安寺の観楓（天保6年9月12日および23日，14a・14b・16a）．東福寺の寺宝拝観（天保7年4月26日，29a・29b）．金閣寺・龍安寺の観楓（天保8年10月20日，47b）が挙げられる．御所の西側に位置する崇蘭館から比較的近い洛西への行楽が目立っている．

本資料は，従来，善本漢籍所蔵者として著名な宮廷医福井氏の，榕亭・棣園父子を中心とした天保年間における日常生活の様子，特にその文雅な生活ぶりを窺い知る資料として，一定の価値を有するものと言える．

翻刻凡例

以下の翻刻においては，用字は底本に基づきつつ，漢字に関しては通行の印刷標準字体の範囲内で表記すること基本とした．変体仮名は通行の字体に改めた．読みやすさを考慮して，適宜句読点を施した．原本との対照に配慮して，改丁ごとに末尾に（1a）～（49a）を附した．

本翻刻では10.5ポイントを基本とし，底本が小字で記されている箇所については9ポイント，または8ポイントで記した．書簡や漢詩文などを引用した箇所は，文頭2字下げにして記した．

底本に誤記があると認められる箇所は，後に［ ］に正しい字を入れて補った．底本に空白がある場合はその箇所に［（何字）空白］と記した．

【翻　刻】

崇蘭館往来　天保五甲午正月始至八年丁酉十二月（表紙）

天保癸巳六月廿七日，回状写し．

以廻章得貴意候．残暑之節御座候処，各様愈御安全被成御起居，珍重奉存候．然は先生御儀，昨夜仙洞御所御違例中，為御勤労御賞，正四位下被為蒙御推叙候．依而此段為御知申上候．右為御歓御入来可被成候．已上．

六月廿七日　　星野順甫　加藤梅春

松木 白石 甲田 岡本 曲直瀬 土山 白井 安達 今枝 鎌田 川端 多田 石川 野田 亀井 高橋 古林

尚以乍御世話御順達被下，廻り止り方塾中へ御返却可被下候．以上．（表紙見返，貼付された紙片）．

天保五甲午正月

〇元日，未刻如去年，近江守殿廻礼之序被立寄．口祝，茶菓進上．唯シ供廻り十五六人，番茶出シ置候事．

〇二日朝，昌言如例年参舘．拝師翁於居間．翁有歳末立春之作，戯作也．被示．強乞帰．〇中立売福井家申置．但シ去歳抄は山本家不幸ニ付，不面白歳末云々．女孫童トハ即山本氏女子二才之方也．山本氏忌中は，崇蘭舘へ預り被置候也．〇山本家忌中ニ付不参．

〇十一日酉刻，如例年祝杯参集．松木・白井・甲田・曲直瀬・土山・白井・余・安達・今枝・川端・沢井・多田・某々．如佳例扇子献呈．家来江も酒肴出候事．三更帰．

〇十五日夕景，当日参賀，且謝十一日之宴賜．于時有御内客，於勘定場申置帰．直様山本家江参入，忌中徒然ヲ奉慰，長話及二更半．温飩出，家来へも出る．

〇十七日，山本氏病家堀川三条下近江屋常八事ニ而，安州殿書状来候．即代診等相勤，無程死去也．

〇廿日，荻野越中介殿方書状来．今日未刻方山本江参候故，可参哉ト誘来候．即繰合可参入旨返書遣之．廻仕舞申前山本家江参入，越中介殿同話．夕飯出，長話及二更半．茶菓出，虎屋蒸菓子一包被下候．川端氏も被来候（1a）．扨迎ニ来候家来一人，酒料と而鳥目被下候由．実ニ存外故，か様之節ハ御断可申様と申付置候事さへ無之候．家来も余程辞退ハ申候由なから，兼而か様之事ハ可有

とも不存故，別ニ申付置も無之故，矢張申受候由．不都合千万なから，令申受候．

〇廿六日，中村老師大病ニ付，近江守殿ヲ令迎候事．今枝氏も一同ニ，日々代診之心持ナリ．二月二日中村老師死去．

〇二月朔日，未半刻当日参賀．老先生御逢，御茶菓被下之．此節微々御風邪気之由．御声韻少ク濁ル．乍併畏クも主上御熱被為有候故，日々御出勤之由也．〇右本家へ参候序，山本家へも当日参賀．此間入来之挨拶申陳置．〇去冬迄黒門勘定場相勤居候，渡邊了蔵事，今少時節不到ヲ，強而暇ヲ乞引候ニ付，趣意被相考候ハ，勘定場無人ヲ幸ニ，外宿ゟ肩入ニ相成度手段之由．右ニ付，弥用向は不被申付候而，唯朔望斗相勤候様と被申渡候由．右故此方共も餘り入魂ニハ不致方可然哉と之内意之由，ホノカニ聞之．

〇二月四日巳刻，山本ゟ使来．尽七日志，椎茸一袋来．札ニ（1b）

二月十一日 厚徳院 尽七日志 山本

右以侍衆口上被申越．返礼申帰ス．

〇二月六日未半刻，従山本書状到来．

口上．春寒之節弥御安康珍重奉存候．誠ニ旧冬不幸之節，彼是預御世話，御苦労辱奉存候．無程尽七日ニ付，麁末之非時致進上度候間，来十日巳半刻ニ御出可被下候．為差儀も無之，却而御苦労とも存候得とも，此段申入候．

以上．二月　　鎌田廉吉様　　山本安房介

右留守中ニ付返書得不出候事．

〇二月十日巳半刻，山本家江尽七日非時参詣．麻上下着．於座敷，松木・甲田・余・今枝・川端・多田・奥村祥平以上七人連座．丁寧之料理ナリ．汁，差身（サシ），猪口，平皿，壺，中酒，台引，重引，硯蓋，吸物，浸物，菓子，茶，別蒸菓子，干菓子等．未半刻退席．家来一人供帰無之，預馳走候事．外ニ迎之家来へは，菓子被下之候様子也．

〇二月十五日，当日祝詞可参処，微邪気候而不参（2a）．

〇三月朔日，昨日来左頬類疔発出疼痛甚ニ付，勘定場迄以使不参断申達．山本家江も同断申達．

〇上巳，未聢と不仕候ニ付，参上御断書状遣之．元誓願寺様，中立売様へも御序ニ宜敷御断奉頼候段申達ス．

〇十五日晴，巳刻前，当日参賀．大坂病人等春先ニ而多来候ニ付長キ間待居候．其間ニ山本君，中立売君，荻野越中君，追々入来之節，面会申上候．尤江左君ニハ面会也．扨棣園君は先月来御所御詰未被免ニ付，于今詰切之由．今日暫時御下り之由，幸拝面．午刻師翁一寸面会．当賀申入，直様退出．帰途山本へ立寄申置．

〇四月朔日，巳半刻，参殿之後，崇蘭館へ参賀かけ山本家へ申置．於師翁居間献賀．松木氏同参長話．茶菓被下之．師翁当三月十日賜観南殿桜花之作アリ被示．強乞帰．且去年正四位下被蒙之後，関防且大印二顆出来候物，今日押被示候．

〇四月十五日，参かけ候途中，無拠病用隙入ニ付，不参．

〇五月朔日，風邪と申達，勘定所迄以門人断申遣シ．

〇五月五日，巳過刻参舘．師翁於新建熨斗被下之．書蔵略出来被令一見．且被見竹葉山帰来之繁延（2b）．但シ参館前，山本家へ参る．出勤中ニ付申置．帰途中立売江参，久々ニ而拝面長話．荻野越中介殿御入来．甲田氏も已ニ被参居，会談．

〇五月十三日，未刻前，明後日神事案内書状来，日向半切也．

向暑之節弥御佳勝珍重ニ奉存候．然は明後十五日は当方神事ニ付，御手透ニ御座候ハヽ，為差儀も無之候得共，不相変午時後御出可被下候．右得貴意度如斯御座候．已上．五月十三日

上書　鎌田廉吉様　福井丹波守

右請書即報仕，杉原半切ニ認．

老先生ゟ御手紙被下，謹閲仕候．如高諭向暑之節御座候所，御揃益御機嫌能被遊御座，恐喜之至奉存候．然は明後十五日は御神事ニ付，参舘仕候様 ~~被仰下~~ 不相変蒙御案内 ~~候段~~ 深難有奉存候．無御辞退午後ゟ参上可仕候．右御請申上度，如此御座候．宜御礼御沙汰奉頼上候．以上．五月十三日　　昌言拝上

上書　~~福井様~~ 崇蘭館御取次中　鎌田廉吉（3a）

〇五月十五日，陰後晴，午半刻，神事如例年参舘．

連客，水野先生・河内先生・甲田・余・川端・多田．相揃後酒出．

献立　吸物 白ミそ 鱸 粒さんしやう

八寸 巻玉子 焼鮎 香茸

八寸 生貝 蒲鉾 青とうからし

平皿二 壱鯖すし 壱こけらすし

大平鉢 鯛塩やき　大平 鰻鱺

平鉢 洗鯉 あさうり 煮酒

吸物 松露 水禅寺海苔

小鉢 蓮根 瓜 したし

右等にて追々献酬之中，元誓願寺神輿渡御也．今年は例年とハ格別早日の内ニ不残行列相済．

後飯　汁 赤ミそ かいわり

平皿 半片 椎茸 むき午房

膾 鯖 胡瓜 いり酒

焼物 小鯛引落 鱧骨切

中酒　硯ふタ 三種　水物 ひわ　したし　秉燭済．

例年右ニ而退出之処，今年は俄ニ仕舞囃子催有之．右は鈴木源次郎方江神事ニ而片山父子其餘某々被来合候を，山田覚之右ヱ門思付ニ而，一寸急ニ催シハ如何と被申ニ付，俄ニ催也．福井方ハ野村江も急ニ為知有之候．番組，

片山伝五郎

高砂 平島善太郎 関口富之丞 阿波谷田友吉 車永九十郎

片山九郎右衛門

盛久 鈴木源二郎 鳴方同し

土筆 茂山千五郎 同忠次郎

不服立 忠二郎 保田安二郎　地方園久兵衛

邯鄲 伝五郎

善知鳥 野村三次郎

膏薬煉 忠二郎 保二郎（3b）

仕舞 山姥 九郎右衛門 熊坂 三次郎 箙 伝五郎

一調 松虫 三次郎 永吉　富之丞

氷室 九郎右衛門 久兵衛 友吉

語 奈須 千五郎

融 三次郎　祝言 聖人御代に又いて

三更半相済，三更過帰宅．

○五月廿四日，申過刻，塾中方廻章来．

以廻章得貴意候．薄暑之節御座候処，各様愈御清適可被成御座珍重之御儀奉存候．然は今般，棣園先生御儀為格別御出精御勤労御賞，従五位上被為蒙御推叙候．且又老先生御勤労御賞譲，安房介様御儀正六位被為蒙御推叙候．依之為御心得為御知申上候．已上．

五月廿四日　谷志津馬 渡邊寿真

松木 白井 甲田 岡本 曲直瀬 土山 白井 安達 鎌田 今枝 川端 多田 石川 野田 亀井 古林 山本 泰助

猶以乍御世話御順達被下，廻り終り方塾中へ御返却可被下候．以上．

右写取，即刻土山氏江廻達ス（4a）．

○右欽早速参舘可致之所，両三日微邪気ニ而遠路頭痛ニ響候故，延引．五月廿九日参舘．路次之順ニ付，山本家へ先へ行．尤麻上下着．房州君去ル廿三日頃方微疫ニ而引籠，今日は大分快とて於病床面会有之．茶菓等被出，緩々伽談申居，且診察仕候様被申付ニ付一診．類瘧之意アリ，今日間日かと被存候段申述而，彼是移時中，中立売君為見舞入来．又々交話旁長座ニ相成，申半刻ニ相成．夫方崇蘭館江行．老師ニ謁ス．例之長話申上，茶菓出．唐山之位記嘉靖三十三年之物被示候．扨々美麗ナルモノにて如何にも位アル物ニ見へ候．綾地色目織分也．其外董立山楽志論巻物被出示候．此中棣園君帰舘．今日此度之位記御申請之由．即拝見被仰付候．御推叙之新文句有之，一東ノ韻ニテ四言六句也．酉前帰．

○六月朔日，当日参賀之積，微邪ニ付不参．

○六月八日朝，三好俊造頼ニ付淡州三原郡加集村加集惣兵衛妻さとと申病人紹介遣し候．学侶渡辺寿真・谷志津馬迄書状遣之．右老先生診察有之候由，三好挨拶申来．

○六月十五日，当日参賀之積，昨日神事ニ付事後レ不参ニ相成，後日断ニ行事．

○六月十七日，暑気見舞銘味噌一箱呈上如例．勘定場吉田敬蔵殿迄手紙相添．○銘ミそ養老舘江如例誂候事．代五匁五分也（4b）．○右使差出候節，熨斗包添候事不忘様可致事．右返書来ル．但シ吉田敬蔵と覚居候所，姫井圭造ナリシ．

○六月廿一日，早朝，近江守殿以使者姫井圭造，今日従是三井寺江虫干拝見ニ罷越ス．尤例年ニ而ハ無之事故，寛々拝見之積ニ候．右ニ付今日ハ大津ニ申刻比迄も避暑旁滞留候間，従跡被追付候様

と誘引之口上申来．余も参度候へとも，餘り卒急ニ而繰合いたしかね，且暑気ニまけ居候場も有之，旁乍残念御断申上候段申之．

○六月廿七日，巳過刻，暑見舞参舘．尤早々ゟ少々所労ニ有之，断申候事．老師，棣園君共ニ拝晤．棣園君此間三井寺江虫干拝見之咄等有之，就中智証大師公験之巻，真鯨（マクシラ）ト云人之浄書等見事之由也．此巻中仁寿之年号，仁ノ字作イ，或ハ無仁字，唯寿ノ字斗有之候由．今ノ御諱ヲ避ル例ニテハ兼・恵［＊共に末画を缺く］ノ類ナルヘキニ，如何哉と考候ニ，仁寿ナラハ清和天皇之年号也．然レハ惟仁也．サラハ惟ノ字ニテ遠慮アルヘキニ惟喬親王有之候故，惟ノ字ニテハセラレヌ故，仁ノ字ニテ遠慮アルモノナラント考ヘタリ抔之説話アリ．巳半刻山本家江参．西池氏被参合，々談長座，殆及午．

○七月七日，巳半刻，当日参賀．老師早朝来応接繁ニ付少々眩暈之気味ニ付（5a），於居間寝床対面．江左君ゟ熨斗昆布被挟候．○山本家，中立売家申置．

○七月十三日朝，中元佳儀進上．勘定場預り迄書状相添．

以手紙得御意候．□□之節御座候処，大先生御始御揃益御機嫌能被遊御座，奉恐喜候．貴所様弥御健勝非成御勤，珍重御儀奉存候．随而方金弐百疋麁末之至御座候得共，某之御祝儀申上候印迄呈上之仕度候．乍御面倒可然御披露可被成下候．右御頼申上度如此御座候．以上．　七月十三日

尚々不相変蒙御懇命候段，難有仕合奉存候．尚幾久奉願候段，御序ニ宜御礼御沙汰奉被仰上度候．以上．　姫井圭造様　鎌田廉吉

○中元納賀可致所，去ル十一日夜男子出生ニ付，七日之間遠慮仕候故，断書状差出ス．

以手紙得貴意候．先以中元御祝儀目出度申納候．大先生御始，御揃益御機嫌能被遊御座，奉恭喜候．然は私事当日御祝詞参上可申上之処，去十一日夜男子出生仕候ニ付，産穢七日之間遠慮仕候間不参ニ相成，此段宜敷御断被仰上可被下奉願候．右得貴意度如此御座候．已上．中元　姫井圭造様　鎌田廉吉（5b）

○八月朔日，午前参礼．先生朝来応接草臥ニ付，小休之所也．閏之介君対面，熨斗昆布被下之．依之師翁無対面．往来山本氏．中立売参礼．

○八月三日，未刻比，棣園君従途中書状認被下候．今夕片山，園，井上等五六輩ニ而俄ニ素謡を催候間，聴ニ可来と為知被下候．余微ニ暑邪頭痛ニ而出勤後レ居候ニ付，得不行段断申之．残念々々．扨近辺無拠病用両三軒出かけ候所へ，又々別使到来，今夕御咄ニ御入来可被成と申来，即使ニ面会仕，乍残念不参仕候段申之．

○十五日，可参処，下坂致候ニ付不参．

○九月朔日，参館．老師対面．野田文鼎同時也．御所江自公儀献上之御薬園人参大人参仕立弐斤，御医師ニ経験被仰付候様ニと申来候由ニ付，福井・荻野・高階三家江分ち試候様被仰出候由．右御人参拝見仕候事．但シ今度始而大人参製之物献上之由也．至極よく似タリ．新シキ故か青クサミ多キが如し．

○九月三日朝，江左君迄以手紙洗冤録借用申出シ，唐本小本四巻来．尤朔日参賀之節，願置候也．右ハ大坂ゟ拝借之事申来ル也（6a）．

○重陽，今朝例之通御所御礼後可参之所，殊之外於御所遅刻ニ相成候ニ付帰宅．午後出直し可申所，少々風邪頭痛シ出し候故，姫井圭造迄断書状遣之，不参仕．

○十五日，未半刻当日参館．老師対面．多田同席．茶菓被下候．山本江申置帰る．

○十月朔日，午前参館．当日嘉詞申述．老師対面．折節荻越中殿御入来也．老師色々反古類被為見候而，老師之曾祖父立仙君之連哥抔見之．且近来手ニ入候由光廣卿消息之反古四枚之内，壱枚文言格別京ニなきもの有之，予ニ被下候．○九月二日借用之洗冤録四冊，江左君手元迄反璧．○帰途山本江当日申置．

○十月十五日，申前参舘．甲田氏同時ニナル．師翁朔日之時も折々脉ニ結アル様ニ噂有之，于今同様之由，乍寝所対面也．大坂虎屋新製梅羊羹ヲ切被出候．山本君折節帰宅ニ而被参，申過迄同話退．帰途山本へ当日申置．

○霜月朔日，微ニ風邪ニ付，姫井圭蔵迄断書状遣シ之事．

〇霜月十日午刻，自山本家書状到来．明十一日小集催候ニ付，夕景ゟ参候様，宿題寒夜聞霜鐘．即答承知之趣，返翰差出ス．

〇霜月十一日夕，山本氏江参舘．於幽閑自適楼諸彦集会（6b）．松本・白井赤水・瀬尾父子・甲田・今枝・余，又沢渡精翁．棣園先生始連枝打揃ヒ，但シ江左君依微恙無出席．外ニ文平・山本梅逸．右文平朱子所蔵之硯ヲ持参ニ而被為見，古色可愛．東王公之図アリ，裏面ニ象ノ彫物アリ晦菴珍蔵トアリ．

△宿題拙作

竹影上窗寒月清，霜風凛々送鐘声，
推叩猶不無煩悩，好聴鯨吼坐永更．
席上平安各所寒景三十題分韻，余探得金閣寺寒景韻佳．
水禽無数叫池涯，衣笠今看真雪埋，
贏得山僧護金閣，厳冬伝此物光佳．
又一座咏寒菊限韻幽秋二字，体限五絶．
残叢霜尽染，寒菊吐香幽，
炉畔疑春処，此花能有秋．

△赤水揮書，梅逸画竹石，精斎写銀閣寺寒景画寒菊．三更半帰宅．

〇霜月望，微ニ風邪ニ付断（7a）．

〇十二月朔日，未半刻過参舘．当日祝詞申述，餘程相待．秉燭退帰．挑灯借用ス．師翁微恙追々順快．昨日浴湯之処，大ニ穏ナル容体之由．病家は大方断之よし．

〇同日，大坂桑名ヤ藤介上京，旅宿ゟ以手紙大坂坂町伊丹屋伊平内幸と申者，老師診察願度ニ付，小子迄頼来．即於勘定場，老師朝之内診察有無之所尋合候所，此節一切断ニ而体ニより午後一両人無拠ヲ診察有之由ナリ．依之明朝右伊丹屋内参舘候ハヽ，棣園先生御診察可被下様ニと願置候．

〇十二月八日，申刻，廻章到来．

以廻章得貴意候．向寒之節御座候処，各様愈御安康被成御座，珍重奉存候．然は棣園先生御儀格別御出精御勤ニ付，別段御扶持方御頂戴被成候．右為御知申上候．仍而為御歓御入来可被成候．右之段得貴意度，如斯御座候．
已上．　臘月八日　　谷志津馬　渡辺寿貞
松木 白井 甲田 岡本 曲直瀬 土山 白井 安達 鎌田 今枝 川端 多田 石川 野田 亀井 上田 古林 小縣 宮崎
尚以乍御世話御順達被下，廻り終りゟ塾中へ御返却可被下候．以上．

右，土山へ順達（7b）．

〇同九日朝，寒中見舞，且棣園先生へ歓申ニ参館．棣園君他出．老師面会，同駿輔君侍座也．右御扶持方五人扶持被下候由也．右往来，元誓願寺君，中立売君，時節尋問申入．

〇十二月十一日，寒中見舞呈上，例之通養老館銘味噌一箱也．代五匁五分．勘定場姫井圭造迄書状相添，返書来．〇社友今村［枝］譲助殿継母去ル五日卒中風発，六日死去之由，悔ニ行ク事．

〇十二月十五日，短日ニ付，途中及遅刻不参ニ相成．

〇十二月廿日，今枝江弔慰申入．

〇十二月廿四日，中立売君寒中見舞之名札来．

〇十二月廿四日，学侶より廻章来．

以廻章得貴意候．厳寒之節御座候処，各様愈御安康被成御座，珍重奉存候．然者，先先生御儀被及御高年御用無御懈怠御勤ニ付，格別之思召を以御門内被免杖候旨，昨廿二日為蒙仰候．仍而為御知申上候．為御歓御入来可被成候．右之段得貴意度，如斯御座候．已上．
臘月廿三日　　谷志津馬　渡辺寿貞（8a）
松木 白井 甲田 岡本 曲直瀬 土山 白井 安達 鎌田 今枝 川端 多田 石川 野田 亀井 上田 古林 小縣 宮崎
尚以乍御面倒御順達被下，廻り終りゟ塾中へ御返却可被下候．已上．

右，土山江廻章．

〇十二月廿五日朝，右歓参舘．老師面会有之，久々ニ而棣園君ニも面晤．

〇十二月廿七日，歳末祝儀呈上．姫井圭蔵迄書状相添．当七月中元之節と同文例ナリ．

〇十二月大晦日，酉刻前，歳暮参舘．老師面会有之．帰途山本家同断不在中也（8b）．

天保六乙未年

正月元日未刻，如佳例，棣園君，房州君同伴ニ而入来．如例年茶菓進上．供廻り十六七人ツヽ二組

也．番茶出之．火鉢等不寒様出之．
〇二日，巳刻参舘．如佳例謁師翁于居間．棣園君出勤掛同様．師翁有新年之作，被示．雖乞一紙，以無餘不被許，後日必云々．其詩曰，

一年又値一年春，八十三年梅柳新，
俱喜児孫膝辺侍，恩波相賀杖朝人．

翁云相ノ字ワレモ共々ニ難有がる意ナリト，妙ナリ．〇山本家，中立売申置帰．
〇八日，今枝譲助忌明礼入来．
〇十一日，秉燭，如佳例祝杯参集．今春ハ珍敷白井元三早参ニ付，着座早．余調度着座始候処へ行．師翁戯半分ニ，若手ノ遅参ハ堪忍成カタキ也云々トテ被笑候．如例扇子献上．三更帰．
〇十五日巳半刻，当日参舘．且十一夕之礼申述．師翁長談，松木氏同時．乞師翁歳旦之作，染筆得．
〇廿四日午前，江左君書状来．侍使也．

愈御佳勝被成御座，珍重奉存候．然は明廿五日囃子相催候間，御勝手も不苦候ハヽ，昼後早々御入来可被下候．右之趣，丹波守被申付如此御座候．已上．　正月廿四日（9a）

右返書ニ不及，口答可致と申来候ニ付，侍衆面会，口上ヲ以畏候趣申納候事．
〇廿五日，午飯後早々参舘，継上下着．能被催陪観也．老師去冬杖朝之歓，并ニ親類方之女儀達追々入来ヲ，一日ニ片付度，節之心持相込らる云々．始メハ十番狂言之積，囃子取交ト相成，迚もニ半能ニ可致，遂ニ能トナリシト云々棣園君被咄候事．奥之間北小路局臈正客，其餘ハ親類方女儀打揃御入来之由．門人中脇正面桟敷．重詰酒，赤飯等出．相済候処凡二更也．夕飯出，菓子椀焼物ニ而，同席ハ松木氏・甲田氏・余・川端氏・多田氏・亀井氏，外宿生二人，以上八人也．番組荒増如左．

羽衣 茂市郎 万五郎 慶三 三郎兵衛 又吉 弥一郎
葵上 三次郎 覚之右ヱ門 主計 又吉 弥兵衛　間 正太郎
自然居士 九郎右ヱ門 万五郎 善太郎 三郎兵衛 弥一郎　間 直蔵
天皷 半能也 九郎右ヱ門 善太郎 三郎兵衛 弥一郎
橋弁慶 三次郎 善太郎 富之丞 弥兵衛 間 惣次郎 直蔵　附祝言
懐中聟 惣次郎 惣三郎 庄市 正太郎
泣尼 惣三郎 直蔵 尼定次郎
鐘之音 惣三郎 定次郎
木六駄 惣三郎 主庄市 茶惣次郎 オチ直蔵

〇地方，観世 岩井 林 岡岩，金剛 中村栄一人 一人．惣人数四十人入込候由．
〇二月朔日，微邪ニ付不参．但シ断ニ出し候人都合悪敷，無沙汰致ス．
〇十五日，江左君迄書状差出ス．当日御祝詞参舘可仕之所，明十六日祖父五十回忌ニ付（9b），今明日取紛候ニ付，無拠不参仕候断．且朔日も無沙汰ニ付，餘り失敬ニ相成旁其訳申上．右五十回ニ付親共上京仕度存念之所，昨年来少々所労ニ付，此春寒にて往来得不仕候故，極内々なから一寸下坂仕事抔有之候ニ付，何角と御無沙汰申上候抔と申入．右ニ而失敬之断相立也．江左君ゟ口答ニ而，御念入之御紙面之趣致承知候段申来．
〇三月朔日，途中遅刻ニ及不参．
〇三月三日，巳刻参舘．於居間老師対面．熨斗昆布被下之．玄番権助殿も対面．山本家，中立売申置帰．
〇三月望，参舘之筈，途中遅刻ニ及不参．
〇四月朔日，巳過参舘．老師拝面，棣園君ニも拝面．茶菓被下之．長談及午刻．津嶋先生之行状等色々被令聞候．水尾採薬諸生十人斗連レ，祇園能ヲ立見被致候而遅ク相成，正伝寺藪大葉秦皮見，秘物ヲ被令召候よし．〇宇治花モチ有之漢名之事．〇鷹峯，藤林見物之事．〇藤林，北野ニ而逢見ソシラレ候後被申候事．〇楓亭先生被仰候ハ，津島先生ニ而見識が餘程上リシトナリ．〇楓亭先生烟草やミ候ハ，医宗金鑑之上へ吸カラ落候より断然ト被止候よし．返而源介君ハヤメカケテノ二度も跡戻りアリシナトノ話アリ．〇山本家申置帰．
〇四月三日午後，此間朔日参館之節，日根野赤豆献呈可致と約束申候ニ付，一升進上．飛馬井圭造迄口上書添遣ス．奥向ゟ返書来，老師自筆の短文返書来，ためニ（10a）とて南都の干菓子の古ひたるを被下候．
〇四月十五日，途中及遅刻，得不参舘．
〇十六日，申刻山本家江参．蛸薬師桔更ヤ宗六女病用ニ付，頼ニ行候也．未帰舘無之ニ付，清蔵子迄申置候．十七日午後，見舞之筈也．
〇四月廿一日，依三好俊造頼，淡州三原郡大榎並村原口十太夫と申人，老師御診察願遣ス．飛馬井

圭造子迄書状差出ス．

○五月朔日，未半刻，当日賀参舘．甲田氏同時也．折節辻出羽守入来ニ付待居候所，及酉刻候．老師対面．○五月朔日深夜，小川今出川上町火事ニ付，中立売江見舞ニ参．○多田哲吉子江も行．二日挨拶ニ入来．

○五月四日，巳刻，甲田氏廻章来，今枝方達ス．

代口，薄暑之候愈御清適被成御起居奉欣抃候．就者，安達将監殿儀先比安達家破縁ニ相成，原将監と改名被致候ニ付，子細之儀有之，此度門人席被相除候旨（10b），先生家方被申達様被仰付，其段相達置候間，為御心得得御意候．早々已上．五月四日　　甲田将監

松木 白井 岡本 曲直瀬 土山 白井 鎌田 今枝 川端 多田 野田 亀井順堂 古林正倫 高木元春 小縣清庵 宮崎仲達 横井元中 堀昌言

御順達留より拙宅へ御返却可被下候．

即刻土山江廻ス．○附タリ，甲田氏文箱ノ裡ニ天倪舘ト云書付アリ，メヅラシキ舘号ナリ．

○五月五日，巳過参舘．老師於居間，手熨斗昆布被下之．棣園君・中立売君・荻野越中君等面謁．

○五月十三日，神事案内状来．

口伸，薄暑之節愈御佳勝珍重之御事ニ御座候．然者，明後十五日神事ニ付，御手透ニ御座候得は，為差儀も無之候得共，不相変午後方御出可被下候．右得貴意度，如斯御座候．以上．

五月十三日　鎌田廉吉様差置　　福井丹波守

右僕使ニ而返答口上ニ而と申来，請書寸紙差出ス．

御請，明後十五日ハ，不相変被召寄，難有奉存候．午後方参上可仕候．尚参舘御礼可申上，御序宜敷御沙汰希上．已上．

福井様御勘定場　鎌田廉吉（11a）

○五月十五日晴，午後如例年神事被招行．連客，水野先生・河内先生・甲田・余・今枝・川端・多田，以上七人．未半酒出．献立．

吸物 白ミそ 鱧骨切 粒山椒

八寸 巻玉子 きん子 紅姜

八寸 鱧骨切 車海老 香茸

鮓二種 さは 切すし

大平鉢 鯛塩焼

曲物ふた付 鰻鱺

平鉢 洗鯉 あさうり 煎酒

吸物 赤ミそ 諸子

小鉢 蓮根 鯛サイ切 三杯酢

右ニ而献酬之中，横町神輿渡御也．申過太鼓行．今年も例年とは餘程早ク日の内ニ行列不残相済．後飯出，秉燭．

汁 赤ミそ かいわり

膾 鯛作身 白髪大根 海松 いり酒

平皿 半へい 椎たけ むき午房

焼物 若狭小鯛 引落シ 鱧骨切

中酒　　肴三種硯ふた 鯛小くし 蒲鉾 へちま輪切

吸物 たれミそ 松露 汁姜

したし物　　湯　　香之物 奈良漬　　初更半済．

今日余参舘，午刻過也．連客揃候迄之内，老師於居間面会．百年ニ及候麝香ヲ被示，上品之薫香也．墨汁中へ胡麻壱粒斗入，今先キ文字ヲ試候所能にほふ也云々．文字ハ于鱗句苦雨詩，［二字空白］疑天漏，楼台嗟陸沈ト云二句にて有之．扨又百年ニ及候丁香ヲ被示，香気又淡白也．俗に云ヒンノヨキ所アリ．百粒斗被下候．ソレヨリ線香ヲ被嗅候．上品ノ物一種，郭炫石一種，竹心香一種，何レも上品ナリ（11b）．新渡聖済総録ヲ被示，善本也．後日ニ聞之，御廿板ト也．

○奥庭蹴鞠場ニ而，山本君・江左君・荻野君等有蹴鞠，見物ニ行．右等連客揃候迄之事也．

○五月十七日，未半刻参舘．一昨日之礼申納．老師於居間対面．茶菓被下之．臨退而手製新茶壱器被下之．器ハ大嶋桐之箱也．色々茶話アリ．師家手製は，老師十三才之時，楓亭先生被始候而今に不絶云々．但シ天明大火之度一年休たりと也．今方七十一年ニナル．世上煎茶は上田餘斎ニ始りたる様ニ云ヘトモ，中々師家古し．

○六月朔日，歯痛ニ付，不参断，飛馬井圭造迄申入．

○六月七日，未刻廻章来．

以廻章得貴意候．向暑之刻御座候処，各様愈御佳勝被成御座，珍重奉存候．然は安房介様御婚儀，先月廿六日無御滞被成御整候．尤此度は内分ニ而御引越，御弘は秋之頃ニも相成

候由ニ御座候得共，為御心得得貴意候．前文之次第故，別段御歓御出ニは不及申候．式日御礼之節，御口上ニ而御申置被成候而可宜と奉存候．已上（12a）．

六月二日　　高木元春　横井元中

松木 白井 甲田 岡本 曲直瀬 土山 白井 鎌田 今枝 川端 多田 石川 野田 亀井 上田 古林 小縣 宮崎

尚以御里方中院家，山本能登守殿ニ而御座候得共，粟津家御養女ニ御座候．且又御音物等之儀は堅御断被申候．乍御世話御順達被下，廻り終ゟ塾中へ御返却可被下候．已上．

〇六月十五日，不参．

〇六月十六日，午前山本家江，先月婚儀相済候歓申納．病客待居候中，昨日於加茂白鷺亭詩会有之候．宿席等被令見候．茶菓出，其処へ又々藤木典薬権助入来，長話故，断申帰．

〇六月廿八日，時節見舞，例之銘味噌壱箱進呈，勘定場飛馬井圭造迄書状添之，返書来．同未半刻，奉訪安否．老師於花南別墅対面．新茶之末或簛出被下之．夫より南庭草花灑之井水被令見．又於小座敷新渡唐銀角之茶瓶桐箱入被下之．及夕景，於其中有深意之椽側夕飯出．汁 白ミソ鯨，平 小茄丸煮，焼物 ウナギ 別ニ茄子油揚味ソカケ スリ柚香物．外ニ不長生箒一被下之．借挑灯帰．晦日返却．今日行途，中立売見舞申置．山本家可参積，及遅刻候故不参候．又朔日ニ参候積也（12b）．

〇七月朔日，感時気微利ニ付，不参断申達．

〇七夕，暑邪再感，又々微利ニ付，遠路罷出かね候ニ付，不参断申達ス．

〇七月十三日，中元祝儀相納．例年之通金弐百疋也．飛馬井圭造書状添，返書来．

〇中元，午前刻参賀．山本君・中立売申置立寄．師翁ニ拝謁．多田氏同時也．

〇閏七月朔日，参賀．師翁拝謁．明日於奥庭蹴鞠人招候ニ付，見物可参と被申．

〇同二日午前，棣園君使口上．今日弥蹴鞠相催候間，見物ニ可被参との事，奉畏候段返答申．即午後病家四五家仕舞，午半過参舘．蹴鞠迄之内，師翁色々世話有之事．未半過始，夕飯秉燭後出る．初更帰宅．蹴鞠五座・大著一座有之候．人数百歩，芳春院・市岡源五郎・山科自省・八木彦六，右等五人也．相済夕飯．汁 白ミソ 葛切 椎たけ，菓子椀 肉脯 椎たけ 小芋 干へう 薄葛，焼もの 鱧骨切，香之物，茶．

〇十五日，申前刻当日参賀．老師ニ謁ス．山本家申置飯る．昨今は灯籠沢山ニ被懸候而，日之中ニハ衆人ニ被為見候由．賑々敷（13a）．

〇八月朔日，巳半刻当日参舘．松木氏同時．師翁於奥座敷対面．今夕俄ニ御所御能下稽古を於崇蘭館見候積故，夕景ゟ来候様にと被申，受旨帰．一江左君へ別段対面ヲ乞．明二日転宅仕候事を申．追々粟津甲州殿ゟも御聞取可被下候．安達氏同例ニハ思召不被下候歟と申事抔申置候．

一　酉刻前参舘．暮半ゟ始る．見物場所ハ庭中八畳之傘を建候下ニ，松木氏・余・川端氏・甲田氏四人，其外ハ学侶衆也．御所御肝煎之衆も被来候事．

座敷見物は御所御内御能掛り之人々と相見へ候．今夕ハ御所へ出る森田長蔵・片山・野村抔斗と存候所，俄ニ福王・小松原父子抔推参ニ相成候．一入面白事也．依之全ク御所之通ニ而ハ無之．番組如左．

囃子 一高砂 九郎右衛門 六兵衛 伝四郎 又吉 等八郎
　　二邯鄲 盤渉楽 甚五郎 善太郎 伝次郎 又吉 長蔵
　　三安宅 三次郎 善太郎 伝次郎 亀次郎

一管一調仕舞 津嶌 連管 等八郎 長蔵
　　揉之段 亀次郎　豊後下り端 彦兵衛（13b）
　　九様乱曲 長蔵　其外いろゝ

半能　融 甚五郎 善太郎 伝四郎 又吉 弥一郎

囃子　獅子 謡甚五郎 善太郎 伝右衛門 又吉 長蔵

二更済．相済飯出．余ハ明日之事有之ニ付，兼而江左君へ入魂仕置，直様退出．

〇九月朔日，午前参舘．老師対面，棣園先生も対面．近作半切七絶乞帰る．但シ字ノ印横ニ上り候ニ付，反古ニ成候筈を乞得タリ．

〇重陽，午刻参舘．老師対面．少々風邪之由，声音濁て聞へ候．尤居間にて面会也．

〇九月十日，午前，荻野越中介殿ゟ使簡到来，明後夜太秦牛祭山本房州ゟ見物誘来候故，尚又誘候由申来．御伴可申と返翰申候事．

〇九月十一日，越中介殿入来．未刻山本江行候趣，約諾仕置．

〇十二日，未刻山本家江参舘．最早先刻御出館ト云々．龍安寺へ向参候様にと之事也．荻野君未タ御出無之故，待可申哉とも存候へとも，ふと龍安寺江御越ニ而ハ掛違候故，小生一人丈先江参ル．

途中口号（14a），

欲侍壮遊趁跡行，先欣今日属新晴，

聞言鸂鶒紅楓寺，暫止吟興茶且烹．

龍安寺ニ至候処，山本君・江左君既ニ着座．松木氏・川端氏・中川・隅野等塾侶三四人，既ニ先被到．今日世話堀川丹市と申人之よし．棣園先生続而来駕．荻野君続而来駕．打揃候後，申刻前ゟ太秦ニ趣く．経蠶森北ノ方ゟ南江ぬける．申刻到太秦十輪院．酒飯等出．牛祭初更過始る．三更ゟ太秦を立帰る．四更帰宅．三条岐路ゟ荻野君と同伴仕．牛祭，摩多羅神・四天王之行列アリ，古雅可観．祭文アリ，よみかた妙ナリ．

〽祭文を鼻でよむ也牛まつり

とよみ候．扨今日摩多羅神と申事頻ニロ拍子にて皆々申候事一興ナリシ故，棣園君斑と云韻にて詩を被賦如左［二行空白］（14b）．

小子狂歌をよむ．

〽牛祭見に御こしのおともをは松木川端かま（摩）たら（多羅）そする

〇今日途中，甲田将監死去之事を聞．塾中ゟ廻章ハ出候由．右ニ付松木・川端組合，香奠として三人にて金三朱贈之ニ致ス．川端ゟ使出し呉候様約束．即金壱朱渡し候事．今日留守中廻章来，如左．土山ゟ来，今枝へ廻ス．

尚々宿坊誓願寺図子東側宝蔵寺ニ而御座候．

以廻章得貴意候．然は甲田将監殿病気之処，養生不相叶，昨夜被致死去候．尤葬式は明後十三日内未ノ刻出棺ニ御座候．仍之為御心得為御知申上候．以上．九月十一日

高木元春　横井元中

松木 白井 岡本 曲直瀬 土山 白井 鎌田 今枝 川端 多田 石川 野田 亀井 上田 小縣 宮崎 曲直瀬 正元

尚々廻り止りゟ塾中へ御返却可被下候．以上．

〇十三日朝，荻野ゟ牛祭掛物借りニ来，借進．〇同午後，甲田氏葬式ニ会ス（15a）．

〇九月十六日，辰刻過，江左君ゟ使簡到来．今日今宮御旅所能ニ参候様にと老師ゟ被申候段申来．右昨日当日参候ハ丶可申入と存候所，不参ニ付，態々申入候旨申来．昨日ハ故祖母十三回正当ニ付，墓参等仕，御断にも得差出し不申，且十二日之御礼等延引仕候内，又々態々御价書を蒙候段，恐入候段返書仕．今日ハ昨夕ゟ少々風邪気ニ而，一二汗も仕度候故，朝来未起出候趣申，不参之断申之．

〇十七日，荻越中介殿ゟ手簡到来．明午後，中立売駿助君，於西洞院一条南集錦園，詩会被催候間，出席可仕様ニと被示越．未ノ刻集会可仕と奉復申．

〇十八日，未下牌，集錦園江会．宿題残菊．着到桂亭君・韋繭君・今枝・余・沢渡・神戸源右衛門・窪田雪鷹・達所君・隅野・山本令郎二人・棣園君，以上．二更前退散．席上集錦園集分韻．今日不存寄園林にて儘山中江行たる心持也．紅楓満渓，脩竹幽禽繞澗亭．是三井家之松尾屋敷と申候由．沢渡・窪田有席画，鬮画，得竹蝉而帰．

〇廿日，午前，越中君ゟ手簡．今日午後於山本家印会有之候ニ付，無差支候ハ丶罷越候様と按内来．今日は先約有之ニ付，不得参と申上（15b）．

〇廿三日，辰過，老師ゟ特使貞二来．今日午前ゟ龍安寺辺遊歴致候ニ付，陪従可致様申来，承候段申．午前参舘．袴羽織にて家来一人相具候事．師家拵隙入，午半刻出ツ．老師・棣園君・桂亭君・達所君・韋繭君・潤之助君・桂亭君息一人・達所君息三人，政尾との先廻り，松木・川端・小子・伊藤先生，其餘陪従許多上下五十餘人．龍安寺大珠院観残楓鸂鶒．帰路等持院矢倉別荘にて開提重，切飯等出ツ．於座敷盛饌也．二更帰．於大珠院絶句一首．再陪龍安寺，

漸佳門内再陪過，猶看残楓霜色多，

麟族振々扶寿老，匹如宝沼水禽和．

〇廿七日，辰半過，棣園君俄然来訪．庭除ヲ被歩，茶菓を献ス．今日は万年寺江神主ヲ被拝候帰途之由．〇同午後参舘．廿三日陪遊之礼申述．師翁矢倉別墅にての作，唐紙半切ニ被認，乞得．臨帰，棣園君自外勤被帰，師翁ト共ニ別段被申付候条，

甲田将監死後，執事役余ニ相勤候様にと之事也．余甚不調法，畏縮候へとも，先受候様被申付候ニ付，承候（16a）．

〇十月朔日，午過参舘．棣園君出勤かけ面会．近日入門之事相頼参候間，可然取斗可致段被申付候事．尤御池屋敷森孫六ゟ紹介之由也．書付如左．

上州吾妻川戸村　大川九功倅　玄徳二十八歳

右申来次第，相談取懸可申様と被申付．但シ取斗方甲田ニ有之候間，勘定場ゟ取ニ遣候而，余へ被渡候筈也．近々夜分参候様申置候事．師翁面会，越中君拝面．

〇十月十七日，圭造ゟ書状到来．入門式等来．

愈御佳勝珍重奉存候．然は入門式下書壱冊，并証文折形為持上候．御落手可被下候．尤右折形通り之広サニ已後御折せ可被成候．是迄折形幅せまく見苦敷由ニ御座候間，左様御含ミニ而可然様御頼申入候様被申付候．先は右用事迄，早々以上．十月七日

右折形，西之内八ツ折にし，一間ニ二行書之割にて調度宜也．

入門式并寄宿式

入門式（16b）

一 御扇子料　方金弐百疋　二重繰台奉書竪熨斗

一 御肴料　同　百疋　同断

右榕亭先生江

一 御扇子料　方金　百疋　二重繰台奉書竪熨斗

右棣園先生江

一 扇子料　白銀　壱両　打片木

右執事江

一 二季祝儀　方金弐百疋　二重繰台奉書竪熨斗

右外宿寄宿共一統如斯．

但シ寄宿之人ハ家来中江祝儀相添．

一 青銅五百文　打片木

右寄宿ニあらさる人ハ無之．

以上（17a）．

寄宿式

一 寄宿祝儀　方金弐百匹　二重繰台奉書竪熨斗

右榕亭先生江

一 扇子料　白銀　弐両　打片木

右学寮江

一 祝儀　青銅五百文　打片木

右家来中江

一 二季祝儀前ニ記ス

一 寄宿扶持　一ヶ月

右入塾之上勘定所江可被差出事．

以上．

入門当日，并年頭・中元・八朔・及五節句，礼服着用之事（17b）．

寄宿請状之事

一 此何某と申仁，此度貴家江御弟子ニ相成，何月何日ゟ寄宿被致修行候．然ル上は御公儀様御制禁之儀は不申及，御家法堅為相守可申候．勤学中有之間敷儀ニは候得共，万一喧嘩口論又は金銀出入等，都而如何様之六ヶ敷儀出来候共，貴家江少も御難相掛不申，私引請埒明ヶ可申候．若シ長病被煩候ハヽ，引取養生為致可申候．此人生国万事能存知，慥成人躰ニ付，請ニ相立申候．宗旨之儀は御法度宗門ニ而ハ無之候間，御改之儀は私方ゟ差出可申候．右等之趣，宜鋪御申上可被下候．為後日，依而如件．年号月日

何通何町　引取請人 何屋某 印

門人　何某　印

福井丹波守殿御内　姫井圭造殿（18a）

寄宿一札之事

一 私儀此度寄宿仕候上，勤学中外宿之望無御座候．若シ中途ニ帰国仕候而又々上京，或再学仕候而御講席江相闕候ハヽ，幾年迄も寄宿可仕候．修業之上治療仕候而，外宿之望御座候は兼而ゟ可申上候間，親共江御掛合之上，胡乱成儀御座候歟，又は外宿之後他門医席江罷出候は，如何様共御指停可被下候．其節一言之申分無御座候．為後日依而如件．　年号月日　何某 印

福井榕亭先生

入門六ヶ月餘之上制約　一札之事

一 貴家秘書秘説秘方等，他人江漏間鋪事．

一 薬種随分吟味仕，偽薬遣申間敷事．

一 売薬ヶ間敷儀仕間敷事（18b）．

一 病家之貧富を択，或謝礼等貪間敷事．

一 婦女診脉診腹之節，不礼不行儀仕間敷事．

一 師弟之礼儀永疎略ニ仕間鋪事．

右之条々堅相守可申候．若違背候は，何時成共御門人之列御省被下，医業御指停被下候共，一言之

申分無御座候．為後日依而一札如件．
福井榕亭先生　　年号月日　　何某 印

上包美濃紙 | 上　　何　何某 |

右，以来此方ニ預置候也．福井――ノ名宛，下り過ぬ様被認候様申之事．且又寄宿生宿之印形，別ニ鑑一ツ取置，出塾之節，時刻付之証印ニ致候事（19a）．尤一ヶ月ニ両三度屋敷にても可勤人ハ，朔望抔被罷出候様申置候事．但シ申刻限帰塾可有之事．右等承之候事．

○十月七日，先生書面来．

寒冷之節，弥御佳勝珍重不過之候．然は来ル十二日，嶺松院十三回ニ付，白餅一重致進上候．且又麁末之非時致進上度候間，来ル九日申刻御入来可被成候．以上．

十月七日　　――　　福井丹波守

白餅十三来．

［別紙貼付］

十月十二日
嶺松院　十三回忌

右志来，且十二日之取越シ九日被招候儀ハ，此度ゟ甲田氏後役相勤候故之由相聞へ候．外ニ松木氏同様ニ贈物と招と有之候よし．

右礼答書差出ス．取次中迄申入事（19b）．

○十月九日，申刻，参舘．麻上下着．香奠之事，松木氏同様ニ仕度聞合候所，先例南鐐壱片之由ニ付，即小奉書三折ニ貼し，折片木ニノセ差出ス．霊前神主江拝礼仕候事．於診察間松木氏と余唯弐人江料理出候事．料理凡如左．

汁 白ミソ 松露 白あつき
向皿 血羹 揚麩 岩茸 白髪栗 海松 煮酒
猪口 薯蕷饅皮 紅うど 豆クワイ 肉あへ
壺 白糸いも 黄白 かもうり そら豆ふ 葛切 こしあん
茶碗 揚葛切 栗 銀杏 とうふむし
平皿 湯葉円たば五本 椎茸 土筆
香之物 瓜ナラツケ 塩押茄子
中酒
台引 大シメ豆ふ 水引こぶ
重引 ツケ茶セン松茸 薄葛
硯蓋 椎茸衣かけ 高野豆ふ 蓮根 柚皮さとう煮 かぶらワサビ包
吸物 竹之子 キサミこふ別製
酢ミソ こうたけ
浸物
菓子 荔枝核三顆 仏手柑一 木ノ葉大小三枚 紅黄萌黄 スベテアルヘイトウ製
薄茶 別菓子 小倉野ニ（20a）

二更帰．○今日，山本君牛祭之節之詩乞帰．

○十月十五日，午前当日参賀．山本家同申置．

○十月廿五日，夕窺．夕飯出．ケンチヤン平皿，焼物かれ半切，新からすミ四半，新のり三枚下され候．中立売君面会．

○十月卅日，夜初更半大宮一条下町出火，今出川大宮と申見当ニ付，不取敢参舘．存外近火也．二更ニハ大方鎮火シ，於診察間酒握飯等出．帰掛師翁対面．

○霜月朔日，辰半刻参舘．師翁於居間被受候．棣園君同上．煎茶を被下，大坂小倉の且青梅（チンムイ）実ハウイノ実二顆，新枇杷（ヒイハ）砂糖漬等被下之．銛始而味之，実ニ珍菓也．其後家製茶且茶ツギ壱添之，桐箱入被下之．将又備前小鰕塩辛一器被下．帰途山本君江申置．○行途，中立売江参申置候事．○今日留守中，原将監実安達一也，不縁後原ト申，名札持参．昨夜師家近火，安否為伺，此方迄尋候段被申候由．右近々師家ニ而問合せ可申事（20b）．○同日午後，甲田孝吉忌明礼入来．

○霜月三日午後，師家幷山本家使入来．出火之節之挨拶被申述．

○霜月十五日朝，当日参賀．師翁・棣園君等対面．師翁居間ニ迷迭（メイテツ）香盆種有之．余不知ニ付尋候処，本草十四巻迷迭香也ト被申，小枝一摘被下候．嗅候様被申，即かぎ候所，姜臭アリ，又一種也．談話之中短日故午牌時計鳴，中食被申付候．於大炉間被下之．今宮火焼ニ付赤豆飯也．汁白味ソ大根，平皿玉子フワ、、，焼物カマス，膾．午過退．山本家申置帰．

○廿一日，寒中見舞銘味噌一箱呈上．姫井圭造迄書状添．

○廿三日，午前上州吾妻川戸村大川九功息玄徳と申人来，師家入門之事弥頼度由被申．入門式等為見之候．尚近々日限之事可申入と申置．同人京寓旅宿，柳馬場二条下ル佐渡屋定吉と申方ニ居候由．○同午後，江左君入来．寒見舞被申，且玄徳

事聞合ニ可参候間，可然可取斗と被申帰候．余留守中也．
〇廿四日，朝参舘．師翁対面．手製カステラ一塊被下之．大川玄徳子事申之，承知也．棣園君・江左君，別段面会．十二月二日入門可然と被（21a）指揮候．〇帰途，山本君江寒見舞参．久々にて対面．茶菓出．此処江棣園君御出，甲田孝吉事岩垣音博士ゟ頼来候段，達所君江相談也．中立売福井江被指置候由也．〇中立売君江も今日伺候ス．〇川端献吉子，今日於黒門面会．従達所君内々伝言有之．朔望之間ニ一度ツヽ又被尋候様にと被申候得共，其処ハ無急度，随分間ぬけ候而も不苦と申事を内々被申聞候事．〇大川江書面出シ，一両日之中今一応面会致度段申之．返書来．
〇廿五日，大川生入来．弥来月二日之事申之．且祝儀等取調らへ前日ニ而も一応見度候段申之．廿九日朝被為見候様約束いたし置候事．尤当日早朝不遅様ニと申之．右当日ニ相成，俄ニ彼是無之様にとの師家ゟ之差図也．〇門人中，追々寒中見舞ニ入来也．
〇廿九日朝，大川玄徳入来．々ル二日入門之祝儀物持参，預り置．のし之類此方にて拵呉候様被頼ニ付，拵遣ス．コマヽヽ紙水引類代六十八匁也．
〇十二月朔日，未刻当賀参舘．明日早朝大川玄徳弥入門之事申置．
〇十二月二日，辰刻過崇蘭舘江大川玄徳入門．同伴致ス．於診察間，老師・棣園君対面．老師手のし昆布被挟候．巳刻相済（21b）．一白銀壱両ハ余江納候也．〇十二月二日，午前荻野越中介君へ時候見舞，并ニ先比ゟ温疫下血之症にて久々引籠ニ付，其見舞も申述．尤内玄関江参り委細申置．
〇八日，午後棣園君寒見舞入来，茶菓出之．〇同夕方ゟ参舘．荻野越中君所労ニ付，老師何と無ク案思有之，夜分難寝段承之．松木・川端抔折々被参候由故，余も伽旁参候也．但シ川端氏ハ謡曲二三番ツヽ被致候由．余も其積ニ仕居候処，師家縁家 老師故家内之里 世継氏死去，十日葬式，右相済候迄何となく遠慮可有之ニ付，唯素話也．白粟（シロアハ，ムコダマシ）神祭餅被下之，桑細工手拭掛一基箱入，和瑪瑙石こんろ代壱被下之．三更迄相つとむ．尤棣園君・達所君抔始終出座也．
〇十二月十二日朝，荻野越中介殿死去．右午後他所にて聞之ニ付，皈宅後早々参舘可致と存帰候．于時酉前．留守中棣園君途中ゟ使被差越，在宿候ハヽ用事有之候趣ナリシ．旁夕景ゟ参舘．右棣園君用向は今日三角江聞合之事ニ付，余を遣度候事なりしか，最早其用事は相済候趣．松木氏被参候ニ付，余と両人老師伽可申段被申，即居間江参る（22a）．雑話及二更半．荻野方并師家発喪之事，凡明十三日朝某々御届向差出候積ニ聞合等相済候処，二更前比鷹司関白様ゟ御内命山本氏迄参り，万一披露之事ニ相成候ハヽ暫延引可致と之事也．此趣直様荻野江申参ル．荻野氏にも無是非，左候ハヽ見合居可申と之返書也．此事実ハ河州殿四品宣下之事也．一松木氏・余両人江杉有職形菊蒔画菓子箱三種干菓子入被下之．
〇十五日申刻参舘．実ハ荻野方披露は如何哉，聞合ニ参る也．今日披露ニ相成候事故，福井方も今朝届書出候由也．武家江棣園君・達所君と之届書出候由．尤内々聞合有之候所，半減之由也．尤公武共昨十四日と申届書也．葬式十七日酉刻出棺，内野立本寺江被送候由．此節余ニ棣園君名代被申付候．酉刻前荻野北隣夷屋加兵衛宅迄参居候様にと被申付候．外ニ川端・多田・西池等，江戸福井君・中立売・元誓願寺等之名代被申付候由也．
一 塾侶ゟ門人中江廻章出候．大先生始御一統御忌服被為受候ニ付，為御悔御出可被成と申為知出る．廻章点ヲかけ，廻たる体ニ頼置．外ニ書添有之，来春大先生は年礼被請候得共，棣園君始一統は四日忌明之事故，四日ゟ後出礼有之方可宜と申事申出る．山本家，中立売福井家江悔立寄（22b）．
〇十七日酉刻，荻野家葬式．未過飛馬井圭造ゟ書状来．

愈御佳勝被成御座，珍重奉存候．然は今夕は御苦労奉存候．時刻之儀は七ツ時ニ恵比寿ヤ嘉兵衛方江御出可被下候．右得貴意度，如此御座候．已上．十二月十七日

〇申過刻，荻野江行．草履取一人召連候事．下宿戎屋嘉兵衛江行，某々名代之人数四人相揃候上，台州園江罷出．乍立飯出．汁 赤ミソ 菜，平皿 飛龍頭 ゼンマイ，猪口 水ナカラシあへ．相済又戎屋江参，出棺ヲ待居．秉燭，従河州君以宮脇興蔵為使，今夕は為名代御

苦労之御儀，先刻御挨拶可申述と存候所，最早下宿江御引取ニ付，以門人右御挨拶申入候云々．供揃へ拍子木三番迄打之，四人名代・江左君抔何レも列外也．最初荻野ゟ二人被出親類也．次ニ福井駿助君名代川端氏，次に棣園君名代余，次ニ山本君名代西池氏，次ニ江左君自分，以上先供也．ソレヨリ荻野氏・高張・白張・高張・棺等，惣供立アリ．押へ江戸福井名代多田氏，終．右江左君・四名代何レも高張二・箱挑灯二，両若党上下手挑灯，鎗，長柄，草履取．△右何れも福井方ゟ供廻り出候．草履取斗召連行候事（23a）．道筋，新町上へ，押小路西へ，油小路上へ，下立売西へ，葭屋町上へ，下長者町西へ，千本上へ，二丁西へ，立本寺．本堂にて江左君四名代は東之方堂内江上り着座，無焼香，勤経引導相済候後，墓所江会葬，無滞埋葬．寺中ニ而休息．餅まんちう七，茶出．棣園君・達所君，最初荻野にて見立，直ニ寺門江先廻り有之，埋葬見届被引取候．桂亭君は堀川下立売辻にて夫婦見立被出候．

一　立本寺ゟ余は直ニ帰候様被申，帰途荻野江立寄，近江守娘兄弟皆々ゟ今夕葬式無滞，埋蔵都合克相済候段，河州君御安心可被成候様と申事を申達候様にと被申付候．即二更帰途立寄，右申達ス．

〇十八日，昨夜，箱挑灯壱張用帰候而包壱福井方へ預置候処，姫井圭造ゟ為持越シ，挑灯返上．

〇廿日，秉燭参舘．三更半過退．四更帰．今夜伽侍輩多，濱島志州君・松木・川端・鎌田・林喜兵衛等．其餘子息方打揃，大雅画帖・扇面帖・清風奇硯抔，種々被展示．二更河漏出，臨帰．紀州蜜柑三，朧饅頭七被下之．

〇十八日以来，池之防［坊］内梅本飛驒江代診被申付候．日々往診（23b）．

〇廿三日巳半刻，棣園君入来，明廿四日朝丹波守忌明ニ付，此近辺仲間江，為名代廻勤之事頼ミとの事也．名札 福井丹波守 所労ニ付代，ト認候様被申候．三角・高階・烏丸山科・小林・畑，右五軒江参候也．

［別紙貼付］　福井丹波守 所労ニ付

〇廿四日，巳刻ゟ右代礼廻ル．

〇廿六日，暮早々参舘．松木氏・堺伊同伽．しこうもち出．二更半過退出．三更帰．利済十二種串雅編ト申写本新舶之由被示．去ル十三日十四日長崎大騒動之次第，早飛脚書付被示．

〇廿八日，飛馬井迄，以書状歳暮祝儀進上之．但し当年ゟ小鯛十五枚ニ相改候様，先頃中川周助ゟ噂有之ニ任背候．塩小鯛十五枚，代凡（以下缺，24a）．

三角，高階，烏丸山科，小林，畑．右五軒，明廿四日，丹波守忌明，名代御出可被下頼入候．名札左之通．

福井丹波守 所労ニ付代

麻上下御着用可被下候　［以上別紙］．

〇大晦日，申半刻参舘．歳末祝詞ハ別段不申述，伽及二更半過，三更帰．窪田雪鷹子・川端氏同伽．宵之間松木氏も伽也．余夕飯相乞候事．平皿午房太煮青海苔，焼物鱧骨切．〇二更茶飯出．平皿塩くぢ薄雪こぶ，焼物ぶり酒いり．〇肥後八代焼茶出し被下之．大判形まんちう十被下之．先夜桑ノ手拭掛漆ぶき被申付被下候よし，今夕被渡候．〇今日山本家江忌中見舞参舘．中立売江ハ不参ニナル．〇来年正月五日ニ参礼可有之様被申渡候．尤老師は表一通ニ候へとも，平日参馴候輩ハ返而諸君江遠慮之意味相含候事（24b）．

天保七丙申年

正月三ヶ日，棣園君始諸兄弟方忌中ニ付，老師江之年賀も五日迄延引之事．

〇正月四日午後，棣園君忌明ニ付入来．〇午後中立売江年賀行．

〇五日，年賀参舘．老師於居間のしこんふ被挟候．棣園君・達所君拝面．山本家へも今日参礼．

〇十日夕方，橋倉直造入来．阿波書生天羽（アマウ，アモオトヨム）玄甫と申人入門之事申出度ニ付，頼之由也．明十一夕参舘之節可申納と申置．

〇十一日，申刻参舘．熨斗目麻上下着．如例扇子一箱三本台共持参．秉燭着座如佳例．駿介君旧臘少々手臂怪我有之ニ付不参．息精一郎君出座．惣計廿五人．二更半退出．来ル十三日諸礼之節世話，川端・多田被申付候由．

〇十四日朝，橋倉直蔵来，此間頼込之天羽氏入門之内意を聞ニ来．尚今晩可参間，其節之事と申置．

〇十四日，夕参舘．十一日之礼并伺候，且天羽氏

入門之内意聞ニ行．即内々許容也．帰掛橋倉生へ申置．今夕信州蕎麦出．丹波ノ理石ノ紅炉台被下候．旧冬之物ゟ大ナリ（25a）．

〇十五日，午後当日参賀．師翁於居間被逢．今枝同時．于時申刻過．帰途，山本家・中立売家へ参賀．但シ（以下缺）．駿介君旧臘右手閃挫にて于今無出勤ニ付，見舞申納候処，追々快方ニ付被逢候．今十日斗も相立候ハ、全快之由相見へ候事．秉燭迄長座．今枝氏同伴にて参入．

〇十七日，荻野河内守所労ニ付代入来，忌明礼口上被申述．

［別紙貼付］ 忌明御礼　荻野河内守　所労ニ付代

〇二月朔日，申前参賀．松木・窪田抔先入．達所君・江左君抔蹴鞠ニ付観之．及黄昏，夕飯被下之．汁白ミソ ユバ，平皿カマホコ椎茸養老夫，向中チリメン雑喉［魚］，別段鮒膾．入夜臨時素謡所望ニ付，塾侶保章［宝生］流之人抔相交，川端俄ニ申遣ス．

高砂サシ後 シテ文助 ツレ圭造 ワキ余 同音金造達所君江左君

熊野シテ余 ワキ金造 ツレ文助（25b）

安宅シテ余 ワキ川端 判孝之介君 ツレ山文助

二更相済，誠ニ入レ交ニ而殆困候事．又々餅出ツ．とき海苔汁，蒸餅，大根おろし．三更帰．

〇去ル十四夕，阿波書生天羽某，入門之事内々ニ相済居候所，同人親急病ニ付不取敢罷下り候由．何れ上京ニ相願度候由．橋倉生申之．

〇二月九日，午前，甲田弘吉入来．伊勢高田御内医松田祐庵と申人同伴．右祐庵子息十六才，此度御門主御上京ニ御供にて上京．幸之折柄故，入門之事願度，尤先年甲田将監へ存命中ゟ一寸噂は有之候人也．右当月廿日比御門主御発駕，祐庵も御伴にて帰郷之事故，何卒夫迄之内入門相済候様，且入塾之儀は御発輿後と申事也．将又此度十六才にて罷登候事，実ハ両三年早ク候得共，兼而入学之事ハ治定いたし置候也．今度専修寺様若君御十歳餘，徳太［大］寺様御実子之御約束ニ相成，中院様江御養子ニ被為入候．右ニ付御子達之事故，松田息兼而御側御親かニ付，御伽旁被召連候而，其儘入学ニ相成候由也．依之当分二三月之処ハ，月ニ五六度，中院家へ午後暫時ツ、御機嫌伺ニ参上仕度，此段別段之願也．師家も内実ハ御門主方ゟ被承置候由．

〇十日朝，参舘．昨日伊勢松田氏入来，願之事申入．十五日朝入門可有之様許容也．此度ゟ目録台紙水引のし等ハ勘定場ゟ出入之台屋へ誂られ候様取斗候事．姫井圭造承知也（26a）．〇老師，荘子蝶之賛をしたりとて被示候．近来之傑作也．乞帰．且先夜謡ヲ謡ひ候ニ付，褒美とて桑刀掛一組被下之候．右之挨拶とてハ甚迷惑之段申納候処，左候ハ、何かなしニ被遣と之事也．無遠慮申受候様にと也．辱拝受致候事．〇午後，昨日之松田氏ゟ聞合ニ来，即十五日早朝許容之事申達ス．此間松田氏入来之節，土産とし而和布刈一箱，干白魚五把被贈候．

〇二月十四日午後，太田備後守用達，中川彦兵衛と申入来．家中之医生入門之事願候処，師家御承知ニ付，可然取斗頼候由．尤本人未上京無之候．尚又追々可申入様申置被帰候．

〇二月十五日，巳刻ゟ参舘，当日申納．并ニ勢州高田産松田祐庵男森寧作入門，同伴致ス．午刻相済．但シ来ル廿一日ゟ入塾也．此度ゟ進上物台紙水引のし之類，勘定場ゟ出入之方へ誂候ニ治定．即松屋又六と申へ誂ニ相成候事，此代拾壱匁也．進物類，先例之如し．

覚（26b）一 七匁五分　御入門之分　台紙代
　　一 三匁五分　御寄宿之分　同
　　〆　拾壱匁

申二月十四日　福井様御勘定所　松屋又六

〇今日於福井家中食出．汁白ミソ大根，膾大根，平皿竹ノ子青こぶ，焼物かれ．〇蘭竹書屋ニ兆伝首［殿司］ノ羅漢かゝれり．阿氏多尊者トアリ．医者也．童子薬研にかゝる人物添．

〇十六日巳刻，松田祐庵，昨日森寧作入門之礼ニ入来．為酒料金弐朱持参し，辞退申候得共達而と申され候．

〇廿四日午前，当十四日入来之中川彦兵衛又入来．福井家入門生両三日前上京ニ付，弥寄塾之願也．本人名前，大竹元浩三十才．明廿五日尋ニ参候間，廿六日朝本人同ニ被参候様申置候事．

〇廿五日，午後参舘．江左君江面会．大竹元浩入門之事申入．来廿八日朝可然由許容有之候事．今日ハ先生ニハ不拝顔也（27a）．〇廿五日，学侶高

木元春子面会．今年修行及三年候．来ル三月上巳後，一旦退塾帰国仕度段願出され候．即江左君迄申納．右ハ江左君ゟ本人江被申聞候筈也．〇同日夕，中川彦兵衛迄書状遣シ，大竹氏入門廿八日朝之事申入．且夫迄ニ本人面会致シ度段申之遣ス．

〇廿六日午前，大竹元浩入来，為土産掛川産葛布短冊一枚被寄．入門弥廿八日早朝ト申事，其餘心得之事申置．

〇廿八日，雨．大竹元浩入門ニ付，同伴参舘．行掛室町二条北中川彦兵衛江立寄．即大竹氏同伴之為也．途中中長者町西洞院西，松屋又六江立寄，今日式之台紙等拵上ケ之品請取之．且於此宅金子等包分為相済候．巳前参舘．今日棣園君未御宿下り無之ニ付，老師斗面会，手のし被祝候．尚寄宿之儀ハ三月五日と申事被相願候．即許容也．

一 扇子料白銀壱両，例之通余江収納致候事．

〇卅日午後，大竹氏入門相済候礼ニ入来，申置被帰候（27b）．

〇三月朔日，雨．歯痛ニ付不参．姫井迄断書面遣之．

〇上巳，未過参舘．師翁於居間対面．野田氏同時．カステイラ被下之．往来，山本家・中立売家参舘．

〇留守中，高木元春入来．弥五日退塾之由被申．

〇四日午前，大竹元浩紹介．中川彦兵衛入来．明五日ゟ入塾之由被申之．

〇七日，午前香之物一重十本糟共被下之．書状添．

弥御佳勝珍重之御事ニ御座候．然は此香物不加減之品ニ御座候得共，致進上候．御笑味可被下候．已上．三月七日　　鎌田様　　福井

右返書出ス．ため半紙一折．

捧読仕候．然は御香物沢山被下之，不相変難有，早速拝味可仕相楽候．尚参舘御礼可奉申迄，御請如此御座候．宜敷御礼御沙汰希上候．已上．

三月七日　　福井様御台所中　　鎌田廉吉

〇八日，午前中川周助子入来．六角江参候ニ付立寄也．出来合中食出之．

〇十五日，巳前参舘．当日奉賀．松木氏同時．

一 江左君ゟ入門生之事被申候．尾州名古屋町医沼波楨仲と申人之由．紹介ハ（28a）水野源之進殿也．許容之上，尾州江申遣候由．其内上京可有之候也．

〇四月朔日，参舘之筈，此方御殿ニ而遅刻ニ及候ニ付，不参仕．

〇十二日午後，不沙汰断旁参舘．新舶豹皮二枚被為見候．内一枚は塩なめしと云ノニテ皮ノ裏塩からき也．浜手にて潮ヲ以なめすとなり．毛ぬけさるよし．天下之博キ，サマヽヽ意外之事有之物也．

〇十五日巳刻，当日参賀．松木・曲直瀬・今枝等同時也．来十九日，九条様被為成候ニ付，手伝辰刻迄参舘可致様被申付．

〇十九日，辰前刻参舘．継上下着．袷衣，麻上下用意持参．巳半前，九条右府様御成．書画御覧．夕方与御内之御衆芝伯州等，御仕舞等被為在．三更半還御．今日手伝門人，松木・余・今枝今日格別多用・川端・多田也．外ニ須藤斎宮．還御後彼是之内，就短夜四更也．夕飯四更ニ致ス．大分之馳走也．又彼是之内四更半下．最早帰ラレヌ為一宿可致と，今枝・小子・須藤抔供之者共皆々一宿いたス（28b）．

〇廿日早朝，師翁睡起之処江，昨日之礼一宿之礼等申．今朝は一旦退出可仕段相願帰．

〇廿一日午後，十九日之挨拶ニ参舘．師翁ニ謁ス．此間九条様御土産ニ被遣候御墨画拝見，鉄拐仙人絹地ニ被遊候，見事也．

〇廿四日，午後他出中，自飛馬井書状来．

舌代．愈御佳勝珍重奉存候．先日は段々御苦労之御儀，嘸御草臥可被成と奉察候．此壱封，九条様御土産ニ御座候．則御届ケ申上候．御落手可被下候．早々已上．四月廿四日

南鐐壹片来．

右留守中ゟ壱封之書状之請取書遣し置候事．

〇廿六日，辰半刻飛馬井書状到来．

舌代．今日は快晴，弥御多祥珍重奉存候．然は丹波守今日巳刻比ゟ東福寺宝物拝見ニ被罷出候間，若哉御差支も無御座候得は御同道被下度，此段御誘試候様（29a）被申付候．尤御出被成候得は，大仏門前角山城屋と申茶店ニ御待可被下候．乍御面倒御差支有無御報可被下候．已上．四月廿六日

尚々大仏門前迄被参候得は，彼是九ツ時分ニも相成可申哉と奉存候．

右承知御供可仕，午刻比大仏門前迄御出迎可申様返書遣ス．出宅正午刻ゟ大仏門前へ行．先キ江林喜兵衛已ニ出居，余行．川端氏来，今枝氏来．棣園君御出，達所君御出．江左君・浜島君・松木氏・横井氏・石田治兵衛等追々入来．打揃三十三間堂参詣．東福寺大機軒江未前行．老師御出，桂亭君御出．皆々揃，諸迦［伽］藍巡観．申半刻大機之北之寺江返る．海苔鮓出．尤師家ゟ用意也．秉燭，三本木木村屋江集夕飯．汁白ミソ鱧ソボロ，猪口キ瓜赤貝三杯酢，菓子椀鯛海松，焼物鱧骨切，香物，中酒，提重．茶菓．二更過帰宅．挑灯借り帰．今日着用継上下．

〇四月廿八日，午後参舘．今日御所三中間之女中客来ニ付，能狂言等被為見候．就右見物之事被許候．松木・余・今枝・川はた・多田等参舘．未半比赤飯出．二更能相済，後夕飯出．菓子椀，焼物（29b）にて出る．三更過帰宅．今日番組如左．

囃子　邯鄲 竹田平四郎 石井仁兵衛 小松原伝四郎 佐々木又吉 杉弥一郎
　　歌占 野村三次郎 北脇善助 糟谷伝二郎 平岩十三郎
能　　春栄 三次郎 山田覚之右衛門 善介 伝四郎 十三郎
　　乱 平四郎 同次郎右衛門 仁兵衛 伝次郎 小寺庄蔵 弥一郎
　　殺生石白頭 三次郎 中川彦八郎 春藤次郎兵衛 清水半三郎 又吉 弥一郎
　　附祝言 高砂切
狂言　蚊角力 三宅惣三郎　比丘貞 大蔵八右衛門
　　通円 山脇和泉　木六駄 八右衛門
　　胸突 和泉　鐘之音 惣三郎
乞　　烏頭［善知鳥］三次郎 次郎右衛門 作兵衛 池上源一郎 馬場乙吉
　　橋弁慶 平四郎 仁兵衛 半三郎 東永伝次郎 間野村又三郎
狂言　附子 八木七三郎 山川庄九郎

今日之惣出来，一乱，二通円，三殺生石，四比丘貞，五附子なと也．但昌言所観如此．衆眼又別なるへし（30a）．

〇五月朔日，未半刻参舘．老師於居間長話．遊（白井元蔵）春草園之詩を投与セラル．木天蓼花一朶被下候．黄昏迄侍座．帰途川端氏へ立寄．仙嘯堂印之事頼置．挑灯借り帰．

〇五月端午朝，使書ヲ以飛馬井氏迄申遣ス．当日参上可仕之処，西園寺様御危篤ニ付，未タ表向ニハ無之候得とも内実之所ハ御礼請等無之候而銘々共も何となく相慎居候様との申付ニ付，今日ハ唯々何となく礼服等不着用仕候ニ付，御無沙汰申上候段宜敷披露之事頼遣ス．

〇五月六日，鴈金屋了正事来診頼之．三条丹波屋新兵衛ゟ参候ニ付，余書面差向候様頼ニ付，即棣園君江頼之書面指上候事．秉燭来診也．

〇十二日，申刻於塩瀬五一邂逅．来ル十五日神事不相変可来と之事也．

〇十三日巳刻前，自老師書翰来．

薄暑之節，弥御佳勝珍重之御事ニ御座候．然は明後十五日神事ニ付，為差儀も無之候得共，不相変御招申入度，併内々御遠慮之由致承知居候．此方ニハ構無之候間，不苦候得は午後ゟ御出可被下候．右得御意度，如此御座候．以上（30b）．

五月十三日　　鎌田廉吉様　　福井丹波守

右請書即報．

大先生ゟ御使書被下，難有拝見仕候．如高諭薄暑之節御座候処，御揃益御機嫌能被遊御座，奉恐喜候．然は明後十五日は神事ニ付参舘仕候様不相変蒙御案内候段，難有奉存候．無御辞退午後ゟ参上可仕候．併此節内々遠慮仕居候得共，師門ニハ御構不被遊候ニ付，不苦ハ参上仕候様御懇命之程渾て畏候．任仰内々矢張参上仕度候．餘ハ参拝ニ可奉申上候．右御請申上度，如此御座候．宜御礼御沙汰奉願上候．已上．昌言拝上　五月十三日

上書　　崇蘭館御取次中　　鎌田廉吉

〇十五日，午半刻参舘．帷子継上下．神事ニ付如例年被招候事．来客揃候迄，老師居間江参る．茶菓出カステラ 小倉ノ．松木氏当日被参，一所ニ相成．未刻追々来客．水野先生・河内先生・余・今枝・後多田・前川端以上六人也．酒出，料理大凡如例．未半刻鞠庭江俄伎来，三絃を除候藝五ツ斗有之候事（31a）．其後達所君・江左君・中川・輪蔵・余なと蹴鞠，尤余ハ真ニ見物旁参候也．申半刻横町神輿渡御，余ハ今日ハ差ひかへ見物不致．秉燭後夕飯．初更過相済．于時雨降出追々ツヨシ．山田覚之江門来合候ニ付，不斗謡曲所望有之．鉢木一番うたふ．ワキ即山田氏，ツレ川端氏，シテ余勤之．相済雑話．三更半皈．于時雨甚．〇帰宅掛川

端江立寄，余印章之事，仙嘯堂江頼置候物出来ニ付，取ニ寄.

○五月廿一日，午前参舘．十五日之礼申上．老師於居間面会．棣園君・達所君於蘭竹書屋謁．四月念六陪東福寺詩ヲ添削ヲ乞.

○六月朔日，時気と歯疼ニ付断不参.

○六月九日，為書中見舞呈銘味噌，姫井圭造迄書状相添.

以手紙得貴意候．甚暑之節御座候処，老師御始御揃益御機嫌能被成御座，奉恐悦候．貴公様愈御佳勝被成御勤奉扑喜候．然は此銘味噌壱箱，麁末之至恐入候得共，暑中御見舞申上候印迄，呈上（31b）之仕度候．乍憚宜敷御披露可被成下奉頼候．餘は御窺参舘万々可奉申候．右御頼申上度早々如此御座候．已上.

月　日

巻切封し　　飛馬井圭造様　　鎌田廉吉

右使可差出候処，雷雨ニ付不遣候.

○十日，昌言自持参．伺容体候．老師於居間拝謁.

○十五日未半刻，当日参舘．謁老師．折節大夕立，遠雷ニ付，見合居候処，夕飯出候．汁白ミソ 金薯サイ切，平皿ツマミ菜，焼物鰻鱺．棣園君微恙之由．申半刻退出，屐傘等借用．山本家申置．中立売江参上，明後十七日於三樹詩会之由，以今枝氏申来．右之請をも申之.

○十六日，今枝氏江右宿題柳陰牧笛之七絶乞加評．十七日朝評閲し来．○午前出勤中，中立売方以廻章今日延引之事申来.

今日は快晴弥御安康奉賀候．然は今日詩会相催候積ニ候所，無拠差支出来仕候ニ付，延引仕候間，左様御承知可被下候．猶拝顔万々可申上候．已上．　六月十七日　　福井駿介（32a）

神戸源右衛門様　沢渡精斎様　鎌田一

今枝譲助様

右は俄之儀ニ付，乍略儀回状ニ而申上候．以上.

○十八日朝，若原漪三郎頼にて父鈍蔵懇意，大坂薩摩堀飾屋十兵衛と申者不相勝ニ付上京，山本君江診寮願度由，余江紹介頼来．依之達所先生江書状認，即大坂之男ニ為持遣ス．明朝明後朝之内何れ無御支候哉，伺之趣頼遣ス.

○廿日午前，江左君，暑中見舞入来．茶菓差出，早々之仕合也.

○廿二日，一身田松田祐庵老方暑中見舞書来，福井塾寧朔子事挨拶申来．姫井氏江寧作修行入用書付，盆前之間ニ合候様宜敷頼呉度と申来．七月朔日参舘之節，姫井氏へ申之.

○廿六日，今枝氏方使来，中立売君先日詩会之筈延引．右宿題之詩早々相認可差出候様との伝言之段申来.

○廿七日，右ニ付宿題柳陰牧笛之詩，唐紙半切ニ認差出ス．但し延会幸之儀ニ付，何卒添削之程希候段申上（32b）.

○七月朔日，巳刻中立売江参舘．当日申入，且先日出シ置候詩之添削申出ス．折節今枝氏被参合，共々評アリ．巳半刻崇蘭館へ参る．師翁於居間対面．折節大雨．此節被得候張復山水之美幅［4字分空白］山水之美幅とを被示．見事不可一言而尽．師翁曰四十年来，無是等之美幅云々．中食出．汁白ミソツマミ菜，向サヽギしたし，皿ちりめんざこ．帰途山本君へ申置.

○五日午前，林喜兵衛入来．丹州亀山深海健三息富士之助と申人，入門之事内々師家相済候ニ付，尚又通達頼候由申来．尤盆前入門致度趣也．尤親父健三は楓亭先生之門人也．其息継目之事，無子細事之由也．先ツ通ヒ修行願度旨也．多病之人故入塾反而世話可多之案し有之由．来ル七夕昌言参賀之節申入候段申置.

○七夕，巳半刻参賀．両先生対面．一昨日林喜兵衛申込之深海富士之助入門之事，頼申入，許容也．来十一日朝（33a），同伴可致様被申渡候事．右之趣，林喜兵衛江通達致之．尤夫迄之内，本人一応面会致置度申遣ス．○今七夕，加藤子勘三礼申来，素謡有之由也．別段不申入候間，推参可致様にと，江左君方以姫井内々申渡有之候．可参候様申置候へとも，実ハ家内臨月故，可相成丈遠方断度ニ付，何となく不参仕，川端氏迄内意申置候.

○十一日，深海富士之助入門．早朝此方江入来．同伴にて行．林喜兵衛も幸可参事有之由，同伴．本人麻上下着．途中例之通，松屋江立寄，束脩拵致ス．但シ勘定場へ今日之事誂之儀頼置候所，間

違にて十二日と申行候由にて俄ニ難調，餘程相待候．巳刻過参舘．巳半刻，於診察間両先生面会．外宿之式進上相済．余江銀一両落手ス．於調合間姓名を記，同門挨拶相済．右今日ゟ丹州江帰省にて，中元後ゟ通ひ候由（33b）．

〇十三日，朝，飛馬井氏へ以書状中元祝儀相納ム．

以手紙得貴意候．残暑之節御座候処，老師御始御揃益御機嫌能被遊御座，奉恐喜候．貴公様愈御佳勝被成御座，奉欣喜候．然は此麁末之塩鯖五刺，中元御祝儀申上度，印迄ニ呈上之仕度候．乍憚可然御披露可被成下希上候．餘ハ中元参賀万礼可奉申上候．以上．七月十三日

尚々不相変蒙御懇命候段，深難有奉存候．尚乍此上奉願候段，是亦御序宜敷御礼御沙汰奉頼上候．頓首．　飛馬井圭造様　　鎌田廉吉

右旧冬中川氏ゟ内々被申候通，刺鯖三刺之処，三刺にて小鯛十五枚と少し不釣合候故，五刺ニいたス．返書来．

〇中元，申刻参賀．今朝御殿にて隙入候ニ付遅刻．師翁於居間対面（34a）．

〇八朔，巳刻参賀．師翁於居間被挟熨斗昆布．

〇八月念三夜，山本家江行，廻留ゟ参待居，初更帰舘有之．右は防州岩国吉川監物侯脚気症ニ付，京摂之中にて医師被迎候由．就右浪華花岡門人ニ岸功済と申書生寄宿いたし居候，即吉川家医師之息也．此功済方へ岩国侯ゟ京医招待之人を差向，共々医師を迎来候様被申付候由．夫故於浪華は父碩庵へ相談有之候所，京医ならハ福井江州・山本房州，或ハ三角氏歟と三人を差図いたし，且福井・山本之方可然哉と迎之人申之ニ付，即余昌言へ家公之手紙を貰ひ，功済上京也．扨福井・山本方聞繕呉候様頼也．即今極早々内々にて岩国用達荒川彦右衛門ゟ隅野宰助へ入魂にて内々聞繕候所，達所君断也．就某弥予ニ篤と治定聞度段被申来候也．依之夜分達所君帰宅を待面会，委細聞繕候所，老師介抱之為棣園君御宿過さへ御断被申候やから故，迚も達所君百里の遠路を罷越候事，一寸も申出かたく候故，無一二断也．扨右故公済子一応矢張御面会被下度趣被申候．是は如何様ニもと被申，即明廿四日朝岸功済参可申間，御逢被遣被下度申帰る．外話移時，三更（34b）帰宅．

〇八月念四朝，岩国岸功済来，山本家へ参度ニ付書状頼ニ被参候．即書面認，達所君江申上，且棣園先生ニも面会願度旨被申候ニ付，是亦達所君へ願遣し候．右之序，前夜詩話等仕候故，中秋無月三首認メ，且前夜之謝詩一首相添，達所君へ添削を乞遣ス．来九月朔日参舘迄ニ高覧願候趣，書状認添．

〇九月朔日，当賀．謁老師於居間，被眎海雲大幅之山水，新調表装出来也．于時松木・今枝同謁．謁棣園先生於蘭竹書屋．

〇重陽，巳過参賀．謁老師．今日無手熨斗．浜島志州君被参合．松本・奥邨・多田抔同一に述賀詞．山本家・中立売家申置帰．〇来ル十二日，浜島志州君，和名鈔丈之本草被寄候而，一会被催候由．尤水野先生同校之由，見物ニ参候様，江左君ゟ噂有之候．即志州君へ礼申置（35a）．

〇九月十二日，浜島志摩守殿，水野先生を語合，和名鈔所出之草部皆取集被為見候ニ付，即参観．棣園君・桂亭君・達所君・江左君抔各被集候．且学侶皆々参向也．未半刻行，申半退出．昨日和泉岸和田庄屋六太夫ニ面会候処，頻々源順之談被致候．就右今日和名鈔品物会有之趣申聞候処，大ニ喜ひ，即当秋登り候新穀穂両種つるのもち来シ穂，壱反ハこくうるの穂，并於期（オゴノリ）菜少々贈を今日持参被致候様ニと申之．即持参候処，浜島床前ニ順之像并万葉切掛有之候処江，右之両種被供候．

〇九月十五日，巳刻当日参賀．謁老師於居間．山本家・中立売申置．

〇十月朔日，巳過刻当日参賀．謁老師於居間．老師眩暈不食之由．尤格別ニハ無之云々．松木氏一同也．棣園君江も今日は謁ス．山本家申置，中立売申入．於居間少間対話．

〇二日，江左君ゟ使書到来．今夕福王旭翁来，素謡相勤候ニ付，為知候趣．即番組，忠則［度］福王，摂待福王，鉢木福王，云々と申来（35b）．右忝参上可仕段申返書差出ス．折節午鐘ニ付，使へ出来合中飯出之．夕方廻仕舞，参舘．暮半時中村・旭翁・鈴木・源二郎等六七人来，三番相済初更半也．松木・余・川端三人参る．二更飯出，汁・平・焼物付．三更帰．

〇五日朝，中川周助見舞．去ル二日以来疥癬発揮方塗候所，元水気有之処故発揮不思敷，小便赤渋渇等，衝心之気味アリ．依而止発剤，服大犀角云々．尤前夜棣園先生差図之由．此容体ニ付，今朝自黒門別ニ書状使有之，隅野宰助方為知到来．入違ニ小子行．隅野今朝往診之由，加葶藶ニいたし候由．余診察葶藶ハ止メ置候．万一ならハ加石羔可宜と申置．帰途山本家へ参，隅野氏面会．達所先生にも面会．夫方崇蘭館江参，棣園先生面会．

〇六日午後，中川へ見舞．大坂到来煉羊羹一棹贈之．今日少々快方．加石之事申置．

〇九日朝，中川見舞．加石後下利三行，胸前ハ少々快候へとも，胃気を畏レ加石ヲ止候由．依之六一散副用之事申置．帰途山本家へ参，隅野氏面会ニ申置候事．〇九日，参舘．明朝方出坂ニ付，届旁参る．師翁於居間被逢候．

〇十五日，乍夕景当日参賀．師翁於居間被逢．桂亭君列座，棣園先生飯宅（36a）之処也．師翁有近作，見眎，乞得帰．詩云．

　　八十餘年逢小春，紅於佳句悩吟身，
　　幽情不耐停車想，挿得数枝聊慰神．
　　丙申小春　八十四翁榕亭

右葎紙半截．

山本家申置．中川見舞．小便稍増，昼夜五六合．声嗄，蓋悪候．爾後無沙汰致居，霜月朔日於鴈与棣園君晤面之時，容体承之．小水一升二合，声稍出云々．

〇霜月朔日，参賀可致之処，御所経（タツ）宮様薨去．御穏便中ニ付不参．

〇霜月望，午前参賀．於居間老師面会．菱伊参合ス．中食被下之．今日今宮火たき也．赤豆飯，汁白ミソ大根，膾大根，平皿棒鱈大根にんしん，焼物生ぶし，茶，香之物．

〇霜月念五朝，両替町御池上木屋伊兵衛入来．崇蘭館塾中，堀昌言子事，先々月大坂父病気ニ而為介抱被下居候．至此節兎角登兼候故，此所（36b）暫退塾仕度由也．承置，来ル十二月朔日参舘之節，左様可申と申置候．尤近国之事故，何レ一応は有之候様ニと申置候事．

〇十二月朔日，巳半刻参賀．中食出．汁白ミソ大根，膾大根かつを，焼物鰤こぶ巻，小皿煮しめ百合かんへう椎たけ．

〇今日寒見舞をも申之．山本・中立売同断．此間木ヤ伊兵衛来，堀昌言子事申候趣，江左君迄申之，老師承知也．近々之内一応上京可有之様との事也．

〇十二月四日，為寒中見舞，例之銘味噌壱箱呈上．飛馬井氏迄書状添．

〇十二月十日，於大坂中之島壷中庵，堀昌言呼ニ遣シ面会．先日木屋伊兵衛ヲ以被申陳候条，師家承知之事申之，并示談之趣申入．然ル処，当冬は得不登候趣断被申候．尚来春十一日祝杯之節，上京仕度申也．尚帰京之上可申上と申置．

〇十二月望，当日参賀．老師於居間面会．江左君江別段面会．於大坂堀昌言子面会，相談之上，頼之事有之候趣，申入候事．

一 江左君方別段噂有之，大竹元浩事，夜分遊冶之事有之ニ付，一二度ハ見（37a）遁シ候得共，昨夜之次第ハ何レともなく抜出候而，不相済故，紹介中川彦兵衛へ預ケ候．并ニ井上多造同様同伴之趣ニ付，是亦宿江預ケ候間，其段兼而可被心得置と之事．外ニ横井元中も有之．

〇十二月廿八日夜，塾生横井元中入来，彼是侘（ワビ）［詫］之筋不都合ニ付，今日迄も帰塾不叶，何卒願試呉度と被申．右廿九日歳暮ニ行候節，江左君迄申出ス．何分注連過之事ト被仰出候．尤今朝曲直瀬方も被申出候由．

〇廿九日申刻，歳末祝詞参上．老師於居間被逢候．棣園君同断．茶菓出カステイラ也．先比棣園君，塩瀬ニ而一覧有之候三重韻，聞中和尚書入本，所望之所，去ル廿七日自塩瀬来，即棣園君へ差出ス（37b）．

天保八丁酉年

〇正月二日，如例参賀．老師於居間被下手熨斗．棣園君同上．白井元蔵入来ニ付，老師歳首之詩を被示．棣園君も同断．依之小子江も二枚被下之．山本家・中立売申置．中川・松本・隅野・多田・川端等へ行．〇同午後，駿輔君入来，茶菓出之．

〇三日，今枝氏入来．為歓扇五握被寄．

〇五日，丹州深海富士之助方年頭状来，自林喜兵衛届候．返書出之．

〇六日，未後，棣園君入来．茶菓待之．

〇十一日，申半刻参舘．祝杯如佳例．呈扇子，依

例．着座．老師正面，北側棣園君・桂亭君・達所君・江左君・粂吉君・孝之介君・精市君，南側松木・白井・曲直瀬・土山・余・今枝・川端・多田・野田・曲直瀬・小山文輔・寧作，以上十二人．今年珍敷白井老人早出也．鮒膾出時，初更少過也．同時多田哲吉退出．陽明家御宿番有之由也．惣退出二更前也．帰宅二更也．

〇正月望，当日参賀．老師於居間対面．〇大坂堀昌言方年始礼状来（38a）．先日棣園君迄差出シ置候，塩瀬方来候韻書礼と而，金百疋菓子料として贈度段，即小子預り帰る．

〇正月十七日，右菓子料塩瀬へ余持参差出ス．〇大坂堀昌言年始状来候節，十一日祝杯ニ登り度候所，親共聢々と不仕上，母も旧冬方疝痛ニて上京仕兼候趣申来．尤去年在塾中之飯料飛馬井江差登せ候趣申来．右返書出之．

〇正月念二，午後，松田寧作入来．郷信来，祐庵老方年始状来候を被届呉候．且生鯨大臠被贈越候．右返書，且為答礼祇園了廓香煎贈之．百文ツ、ノ箱二ツ．

〇正月念三，飛馬井方書状来．然は加藤子勘蔵参り，発声御座候間，夕方方御出被成間敷哉云々．右返上，畏参舘可仕段申ス．秉燭過参舘．謡已ニ始る．高砂勘蔵，熊野勘蔵 覚之右衛門，善知鳥勘－，国栖 勘－ 覚－．右熊野方聞之．二更過済．川端と余と被令知．飯出．汁鯛あら汁，平皿さこしふ漬松茸，猪口菜からし交．三更半帰（38b）．

〇正月念七，摂州尼崎家中中馬（チウマ）玄岱と申人より書状到来．此度入門之事願込候処，許容之事礼申，且委細は山本房州君方被申含候様承之候．尚又入門式等為聞呉度段申来．

〇正月念八，当日参舘．念三夜之礼相兼．老師於居間対面．昨日は故小野蘭山先生正当ニ而，画像ニ黄飯を供候．残有之ニ付，蒸直し被分賜候．一江左君へ尼崎中馬方書状来候事申入．返書可出候様被申候．

〇正月念九，尼崎中馬へ返書出之．入門式・寄宿式，其外入用等申遣ス．

〇二月朔日，起出候所風邪ニ付，飛馬井迄断書状差出ス．同日午前，大坂堀昌言殿入来．一昨日上京．師家へ罷越，荷物万端首尾能引取候而，今夕船帰坂仕候段被申候．右去冬之節菓子被贈候ニ付，今日京都逗留所両替町木屋伊兵衛へ使遣之，祇園香煎壱匁箱二贈之．

〇二月二日，初更前堀川元誓願寺上ル村雲御所火．右師家近火ニ付可参之処，昨日来風邪気未聢と不致候ニ付，無拠不参ニ相成候段，断書口上書差出ス（39a）．山本家・勘定場江も同様断書差出ス．

口上．御近火之由承之候．嘸々御驚可被遊奉恐入候．早速可窺御機嫌候所，私事昨日来風邪気未聢々不仕候ニ付，無拠不参仕候．乍憚宜敷御断被仰上可被下候．呉々も心懸候へとも不得止事，御断申上候．恐惶謹言．

二日初更

福井様御勘定場飛馬井圭造様　　鎌田廉吉

仝　　山本様御勘定場ト斗

〇二月四日午後，福井家・山本家方近火挨拶之使来．

〇二月六日，此間近火ニ不参断申，参舘．

〇二月八日午前，中川周輔子入来．明九日夜，岩井社中五六輩ニ而素謡，被来呉様之事也．田村，小原御幸，藤戸，大仏供養と申来．九日早朝，右之趣畏候．今夕参上と申事飛馬井迄申達ス．尤中川方内意ニ而三階等縦観之事申来候ニ付，其段も礼申遣ス（39b）．

〇九日未半刻，余先キへ参．師翁種々之高話有之．申半刻夕飯出．ひうを，芹したし．同刻社友大西新右衛門・近藤吉左衛門・芥川利介・福知源介・坂倉弁之介，以上五人参舘．直様三階庭廻り見物被申付，於千山万井楼茶菓カステイラ出る．

秉燭過，謡始．番組．小謡よしや吉の新右衛門，田村芥－成－，小原御幸成－ 内芥－ ツ坂－ 法近－ 大－ 大福－，藤戸大－福－ 立坂－，大仏－近－ 母大－ ヨリ芥－ 坂－ 立福知－，祝言佳辰合同をハ成－．二更半済，飯酒出於坤隅之間．余も同席．汁白味噌菜赤貝，煮物鱒椎茸うど，焼物サワラ付焼，香之物ナラ漬．中酒，硯蓋玉子フノヤキ焼キスこう茸長いも生貝，平鉢鱒塩ヤキ，したし物，茶，かふら莖漬，湯ノ子．茶，加賀糸巻落雁．三更半前退席．〇外ニ大西へ南鐐一片，中川・飛馬井心得ニ而被贈候事（40a）．

〇二月十日早朝，棣園君方書翰来，前夜之挨拶申来，家製茶一箱カステイラ壱塊被贈投．不存寄次

第厚謝書認ム．継而参舘，前夜之礼申上．老師・棣園君へ厚謝申述．〇右カステイラ餘之五人江も分配ス．

〇二月十二日，未後他行中，尼崎松平遠江守内中馬玄岱上京ニ付入来．為土産扇子一箱，看両種ス、キ一海老一，虎屋饅頭五十被贈．逗留所木屋町四条下ル千切屋四郎兵衛と申事．

〇十三日，朝之内中馬入来之積待居候処，無其儀．乍併師家へ入門之一件故，別ニ無子細ニ付，午後師家へ参日限治定尋置候．十六日朝之内と差図有之．帰途，松屋亦六へ台のし等あつらへ置．

〇十四日朝，中馬玄岱并息春岱入来．弥十六日朝同伴可致と申置．〇同午前井上多造入来．此度退塾帰国挨拶被申参，菓子一箱被贈候．右旧冬大竹・横井等同行之事有之候へとも，師家以憐察三日之間帰塾相叶，即十三日退塾目出度相済（40b）．新町三条下ル戎屋ニ逗留也．明日帰国之由．為挨拶，阿波なると紙二帖贈之．〇中馬玄岱へ神代燧并袋壱具，越後紙一帖贈之．返書来．

〇十五日，申刻当日参舘．并弥明日中馬入門之事申入．棣園君在宿対面．中立売・山本江申置．

〇十六日辰刻，中馬父子入来，直様同伴．先松屋又六へ立寄，片木紙類取調へ，巳刻参舘．棣園君出勤之所故，別段早く面会．引続キ老師面会．相済，玄岱老へも別段面会．於調合場如例姓名記し，江左君，并同学之衆面会．余へ扇子料被渡候．帰途於松屋直様諸入用払ニ相成．同伴にて帰ル．被立寄候．茶菓出之．一 今日召連レ候家来へ為心付鳥目［空白］匁被贈候．

〇三月朔日，午後当日参舘．棣園君・桂亭君・江左君等追々対面．老師於小座敷被受礼．桂亭君より節後ニも相成候ハ、尼崎藩医和田左門と申者可参候間，入門之事（41a），委細可申入様被申渡．尤始而之入門六ヶ敷事を篤と申聞候様ニと被申之候．

〇三月上巳，巳半刻参舘．老師於居間対面．江左君方熨斗昆布被下．今枝氏同時也．山本家・中立売申置．〇塾侶小山文輔・中馬春岱入来．森寧朔手札被托候．

〇三月八日朝，尼崎藩医和田左門入来．中立売君之手紙持参也．右始而面会，今明日之中師門へ罷越，入門日限治定可申と申置候．

［別紙貼付］　小菅忠兵衛

同午後参舘．江左君へ右之事申納．老師へ披露之所，来ル十一日朝入門可有之と許容也．帰途中立売君江参．今朝之御返答，并十一日御許容之趣申置帰る（41b）．并松ヤ亦六へも入門之式台紙等誂帰る．〇同日，横井元中子事，国元方母病気ニ付急ニ帰候様申来候故，此段序之砌披露之段被頼候．即今日老師へ申入，許容也．十日退塾也．今日留守中手紙来有之候事．

〇三月九日朝，新屋敷小菅忠兵衛方ニ而和田左門江書状遣之．十一日入門許容之事申之遣ス．尤中立売迄参，出会可申と申遣ス．

〇十日，和田左門挨拶旁入来，尚又何角申述．

〇十一日朝，中立売迄参．桂亭君面会．和田左門待合，松屋亦六より台等来．無程，小菅忠兵衛同伴ニ而入来也．始而対面．包分等致之．同伴ニ而黒門へ参る．小菅氏は玄関より上ケ置，和田氏勘定所へ連レ入．老師・棣園君面会相済．小菅氏も面会也．如例於調合所姓名記之．江左君面会．学侶面会．余へ扇子料渡る．相済候後，老師於居間被逢候．〇午前，余未帰内，小菅氏・和田氏同伴挨拶入来也．〇和田左門・橘正容（カタ）十九歳．

〇十一日夕景，横井元中暇乞入来．菓子一箱持参．明後十三日出立之由（42a）．

〇三月十四日，香之物，糟共一重被下之．鼠七本．

　口上，暖和之節，弥御佳勝被成御座，珍重奉存候．然は此香物甚麁末之至りニ御座候得共，致進上度，御笑味可被下候．已上．三月十四日　　鎌田様　　福井

ため半紙壱折．返書．

　捧読仕候．然は御香之物沢山被贈下，不相変難有，早速拝味可仕相楽候．尚参舘御礼可奉申迄，御請如此御座候．宜御礼御沙汰希上候．已上．三月十四日　福井様御台所中　鎌田廉吉

〇三月望，未半参舘．両師於居間対面．帰途，山本家申置．土大黄根，貝母花等，被令見之．但シ本草ニ出タルハ蕎麦葉貝母ニシテ，今ノ薬用ノモノニ非ス．今ノモノハ和名ハヽクリ，即農圃六書ニ出タルモノナリ．近ク秘伝花鏡ニ図アリ抔，老

師被教之.

〇三月廿一日朝，大竹元浩・中川彦兵衛同伴入来．旧冬ヨリ久々退塾．追々侘事申納候．此節尚又江戸表山本伊庵と申ゟ精々侘事之所，棣園君まで頼ニ参候由．右ニ付大凡許容之恰好ニ相聞候．尚又此方へも可申納と姫井ゟ申之候由ニ付，今朝入来也（42b）．午後参舘，江左君へ申納．無程於居間老師面会．右許容可遣候得共，如以前帰塾之所，尚棣園・桂亭等熟談之上返答可申と被申渡候．尚近々聞ニ参候事，松木氏被参合候．松崎ゟ参候由，艾団子香盆ニ載せ，両人江被下之.

〇三月念三朝，大竹氏入来．廿一日参舘之事申置候．尚又通達可申と申置.

〇三月念六朝，大竹入来．此間之師家返事聞ニ被参候．今日午後参舘致し，聞可申と申置候．〇同午後，江左君より以使清蔵，此間承之候．大竹許容之事愈治定にて，来廿八日同伴可申，且紹介中川彦兵衛ニも同道可有之候由．〇同刻，和田左門入来．此間十八日ゟ廿二日迄之内在所へ一寸帰候而，師家入塾之事願候所，相済候間，何卒何日ゟ成とも入塾仕度段願也．〇同日未半刻，参舘．両生之事申入候処，何レも承知也．但シ和田氏ハ四月朔日治定，大竹氏ハ廿八日歟四月朔日歟之内ニ可致，尚明朝可申と飛馬井被申候．一 春蘭一盆被下之候．明朝可申出と申置候.

〇念七日朝，飛馬井迄以書中昨日被下之春蘭申出ス．且昨日入魂申置候日限之処聞合候事（43a）．右返書来．何レも朔日之事と治定申来．〇大竹元浩殿へ以書中，弥来四月朔日帰塾治定之段申遣ス．此節元浩殿他行ニ而返書不来候．午後余不在中入来．今朝紙面之趣畏候．然ル処中川彦兵衛持病喘息差発，疝積も加り候．来ル朔日比全快可仕哉，未得起出不申哉難斗，如何可仕哉と尋候口上申残シ被置候.

〇念八午後，出勤中，又々参舘ニ而右元浩殿事，中川付添無之而ハ如何哉之所，尋ニ参度候所，途中ゟ歯疼にて得不参候．依之飛馬井氏迄右之趣申遣ス．今日折節飛馬井他出，棣園先生も他行中故，外人ゟ治定之返書難致候．明朝返書可申と申来ル.

〇念九朝，以使飛馬井氏へ昨日之返書聞ニ遣ス．即使へ返書来.

然は昨日は御紙面被下候処，折節他行中ニ而帰宅之上拝見，委細承知仕候．則丹波守・近江守江申聞候処，此度は中川彦兵衛御同道無之而は不宜候間，日限は何日ニ而も不苦候間，同人全快次第御同道ニ而，午時迄ニ御入来被下候得は宜候間，乍御面倒先方へ左様被仰遣可被下候．昨日は御歯疼之由，追々御治被成候哉．御尋被申旨被申付候．右申上度如此御座候．已上．三月廿九日

尚々明後日和田氏御入塾之節，御入来被下候ハヽ，其砌委細可被申上候．以上.

鎌田－　　飛馬井－（43b）

〇右之趣，大竹元浩殿へ申遣し候.

〇晦日朝，大竹氏入来．中川全快ニ付，明朔日可参と被申候故，矢張朔日ニ相願と之事被申参候．午後廻勤中，右之趣勘定場迄申ニ行，圭造へ申置候事.

〇四月朔日，辰刻当日参賀．且大竹氏許容ニ付，待合せ居候．辰半刻中川彦兵衛同伴にて入来.

一 此間中右元浩殿再帰塾之様，江左君・圭造等被申聞候得共，少々間違ニ而矢張日々通ひ候様にと被申渡候．其趣意は，最早再度之過失も有間敷候得共，万一心得違有之様之事ニ而ハ，最早再門人列ニ難叶候ニ付，それゟハ於中川止宿いたし，日々通候様，往来猥成儀無之様可被心得候旨，昌言ゟ篤と申渡候様にと，棣園君被申渡候．尚此段於昌言宅篤と申渡候様との事也．巳刻於診察間，棣園君被逢元浩子并中川喜兵衛候．夕方元浩殿宅江入来．篤と今朝之趣申渡シ候．明二日ゟ日々被通候事．〇今日，和田左門入塾之事.

〇四月望，未半参舘．老師於居間対面．長日ニ付海苔鮓被出候．且昨十四日より新茶製法ニ取懸ニ付，即瀹出し賜り候．不相変精芳也.

〇五月朔日，朝参舘．於居間老師対面（44a）.

〇端午，微邪ニ付，姫井氏迄以書中断申遣ス．〇同日，学侶小山文輔・和田左門入来．外宿大竹元浩入来.

〇十二日午後，留守中達所君入来．小休，手水等有之候由．呈煎茶候．〇同夕，尼崎屋敷より中馬玄岱老ゟ被贈候生鯛一枚届来．新鮮也.

○十四日午後，使書到来.

薄暑之節，弥御佳勝被成御座，珍重の至御座候．然は明十五日神事ニ付，御手透ニ御座候得は，為差儀も無之候得共，不相変午後ゟ御出可被下候．右得御意度如此御座候．以上.

五月十四日　　鎌田廉吉様　　福井丹波守

右請書差出ス．天保五年同様ニ認ム事.

○十五日午後，今宮神事参舘．帷子継上下着．但シ此比冷気なから今日ハ夕立気色にて大抵よろし．下京大驟雨，上京至而少シ．今日連客，水野先生・浜島君・窪田氏・余・今枝・川端以上六人．河内氏ハ舎弟大病危篤ニ付不参．多田氏疫ニ而不参．扨昨十四日より徳川民部卿様逝去．廿日迄鳴物停止之触今朝廻候ニ付，今宮地午前ゟ奉灯抔取片付，神輿無渡御．甚淋シ丶（44b）．崇蘭館料理如例．二更過帰.

○五月念六，大坂堀昌言殿書状着.

当春帰坂後は何れ此頃上京可仕心得ニ御座候得共，御存之大変ニ付，親類中多分類焼仕，何事も不都合ニ相成候而，暫時は他出も難相成候．其上両親共病後之驚にて聢々不仕候間，とても急ニ上京儀難成候間，此段御含被下御序之砌両先生江宜敷御伝上奉頼上候．云々.

別啓，乍御面倒御序之節ニ潤之助様江も前文之儀御談被下度奉希上候.

右六月朔日参舘之節，江左君迄申納，承知也．六月三日返書差出ス.

○五月念九，大竹元浩殿入来．他出中ニ付書状被置帰候．兼而申上候通，国方より申来有之候眼科相兼候事，弥師家へ申出シ度，且何レ江入門仕候哉，是又師家之差図ヲ受度云々．右等小子より披露頼度由．右六月朔日参舘之節，江左君迄申納，承知也．尚又追々可及沙汰由.

○六月朔日，参賀．老師於居間被受候．江左君へ大竹氏・堀氏之願之事共申納候事.

○二日夜，大竹氏入来．師家之様子聞ニ入来．其後折々入来．十四日夕祭礼於此方（45a）被拝候．為土産羊羹一棹持参.

○六月十五日，風邪気下利等ニ付不参断書江左君迄申納．且又大竹氏願之事共も有之候故，何レ近々可参と申上．返書来．此日序ニ大竹氏へも延引断書状遣之．反書来．○大竹氏事，主家用達中川彦兵衛同居之処，就勝手同居之体ニ而，外ニ町家借住居被致候．新町竹ヤ町下西側路次．然ル処，町之法ニ而帯刀人断ニ付，町医之体にて往来致度，就右師門へ出入之節一刀にて通ひ候事聞済ニ相成候様ニと被申候．右於師家は無差支事．主人家之御差支無之儀ニ候ハ丶不苦と被申渡候.

○六月廿二日，暑中見舞例之銘味噌一箱呈上.

○六月廿六日早朝，暑中見舞参舘．実ハ延引ニ相成候得共，中旬後微恙，聢々と不仕候段断申之．老師於診察間対面．此比は早起を楽ニ致居候段御申也．往来，中立売・元誓願寺へ参上.

○廿七日昼前，駿助君時候見舞御光来．弁当御遣ひ，暫く御休息也（45b）.

○七月朔日，又々再感之気味，尤軽浅之事ニ候得共，今日は参賀不参．断之事姫井氏迄申遣ス．○同日朝，江左君時候見舞御光来，被申置候.

○三日，堀昌言子書状，崇蘭館より届ケ来．暑見舞也．外ニ先比上京延引之事，師家承知之旨申遣，其礼答申来.

○星夕，未半刻参賀．師翁於居間手熨斗被下候．人馬平安散一壷被下候．外ニ古今秘花ニ出タル所被示候.

○十二日，中元祝儀刺鯖三刺呈上．飛馬井氏迄へ手紙差添候事．今年サバ至而少ク直段高し．然ル処見事之品有之候．旁三刺ニいたス.

○中元，午前参賀．師翁於居間手熨斗被下之．山本家・中立売申置.

○八朔，午前参賀．老師於居間手熨斗被下之．山本家・中立売申置.

○十五日，歯痛ニ付不参断手紙，飛馬井迄差出ス．午後学侶小山文輔入来．此度老親ゟ呼状来，且国政も改候．旁是非帰国可有之と申来候由．依之棣園先生迄は申納候得共，老先生江未申納候間，近日之参舘之事頼ニ入来也（46a）.

○八月十七日夕，参舘．小山文輔帰国願之事申納候．先以潤之助君申納候．即刻聞済也．老師於居間面会．棣園先生・桂亭君も着座也．茶菓出，青紫蘇之湯被下之，香気妙也．葉五まい斗包もらふ.

○右小山生へ帰宅かけ聞済之事申渡ス．廿日直ニ

出立之由.
○十九日，午後，小山文輔入来．弥明日帰国之事届，且菓子箱壱持参也．他出中故，申置被帰候事.
○九月朔日，参賀．老師於居間対面.
○重九，午前参賀．老師於居間手熨斗被下之．行掛中立売へ参，久々ニ而乞謁．池沼一時也．于時棣園君入来．山本君江も久々ニ而乞謁，并此間山本家へ入門之事頼ニ被参候人之事申入．下立売小川田中武右衛門入来．豊後佐伯藩医吉川玄叔と申人廿八歳，於京都は室町宮脇興蔵方ニ同居．通ヒニ参舘仕度旨，自余願呉度被申之．即隅埜之事申置候得共，尚自余も可申上と申置候ニ付，今日願遣ス．許容也．此段田中氏迄申遣ス事．九月十二日書状遣之.
○十四日，田中武右衛門入来，昨日山本・隅野等参上仕候由挨拶被申候.
○望日，参舘之積，午後廻勤中及遅刻，不参ニ成（46b）．留守中，加賀人前田美作守家中松原逸格と申人，先比帰国之小山文輔之手紙持参也．小山氏去月廿六日無滞帰藩之由．遊学中礼申来．且逸格と申人此度師家へ入門之事相願度段頼来.
○十六日朝，松原逸格入来，師家入塾之事被頼候．且小山文輔子より江左君江之書封，并ニ福井家，福原・中川・河原両氏江之書封持参也．余預り置，明十七日師門へ参披露ニ可及と申置.
○十七日朝，参舘．江左君江申入，松原逸格生事申通．許容也．来ル廿日早朝ニ入門可有之事と申出ル．老師於居間対面．就右中長者町松屋又六江台紙等誂之事．松原氏旅宿へ此事申遣ス事，但シ逸格聞ニ入来之筈.
○十八日朝，逸格聞ニ来．書付等為見候事.
○廿日辰刻，松原逸格入来，同伴ニ而入門．往途松ヤ又六へ立寄，台紙等調之．巳之刻前老師対面相済．棣園先生此節御所之繁勤，最早出仕也．今日入塾式も相済．於調合場姓名記之．此人姓之所吟味無之候ニ付，後日認候事.
松原逸格　允懐（マサチカ）　廿七歳　○入門式銀一両　余へ受納（47a）.
○十九日午後，他出中，田中武右衛門来．此間吉川玄叔事，山本家へ入門之事，即昨十八日無滞相済候ニ付，右挨拶と而入来．且吉川氏ゟ菓価白銀一封被贈候由ニ而持参也．右ハ甚不存寄且制外之事故，甚迷惑ニ候得共，返却モ気毒故，先受置候.
○十月朔日，未半刻参舘．老師於居間被逢．林喜兵衛被参合．黒豆莢豆，唐黍団子ニ而茶被出候.
▲一昨夜平岡某社中廿人斗来候而謡有之候由.
蟷通，明智討，九十賀，道成寺と申番組ト云々.
○十五日午後，当日参舘．老師於居間被逢．山本君上使江歓ニ被勤候而帰舘之処ナリ.
○十九日午後，他出中飛馬井圭造ゟ書状到来．明廿日晴天ニ候ハヽ老師龍安寺へ被罷越候故，無差支候ハヽ可参様云々．但シ四時比ゟ支度為済参候様と申来.
○廿日早朝，返書遣之．今日御供可参と申達．巳過早午飯仕舞行，于時正午也．老師已ニ出駕，先金閣寺一見之由．余久不観園池，目想殆竭，欲走逐．隅野氏ヲ誘ひ，道案内乞．老師尚縦観最中也．方丈金閣園池悉観之．観之了，野道ヲ龍安寺へ向．入漸住門，于時未刻前也．棣園君・桂亭君・達所君追々来駕．切飯・提重・酒等出．伊藤君已ニ被到待候．今日陪従，松本・今枝・川端，学侶森寧作・隅野・余也（47b）．申過此処ヲ立れ，矢倉氏別荘一見．秉燭北埜角屋へ枉駕．夕飯出，種々馳走也．二更黒門へ帰．二更過帰宅．今日白井江も被申遣候所，所労ニ付断詩来．此韻ヲ次而皆々有詩.
○廿二日未半刻，一昨日之礼参舘．追付伊藤先生入来，同席閑談，及黄昏．夕飯出．新牡蠣玉子トヂニ而出る．飯後談復始，及二更．冬梅ヲ被示，冬此節実アリ，薬師山ノ産ノヨシ．野木瓜（ムベ）コレモ薬師山ノ産ノヨシ．唐本五車韻瑞，唐雅同声，宮奇之書龍安寺詩，山鼻之詩之帖なとを被眎候．又内々承之．花山家ノ名菊，真白ノ菊三輪花生ニアリ．実ハ御所献上ノ残之由．中々外ノ家ニアルヘキモノニハアラザル也．且又此菊ノ銘ハ霊元院様御銘之由．賽雪ト申スト也．コノ御銘ハ承ハリタルコトハナキ体ニ心得居ヘキヨシ.
○霜月朔日，巳半刻参舘．老師於居間対面．今日勘定場等煤払也．▲往来山本家・中立売へ参舘申置.
○十五日，微邪ニ付不参．飛馬井迄書状差出ス.
○廿日午前，棣園君俄ニ立寄．無別用．高倉松山

屋敷迄見舞ニ付，家来先へ帰シ候（48a）．都合有之云々．〇此間留守中，学侶松原逸格生宿小川屋某入来．此度転宅仕候ニ付，印形取返シ度云々．尤福井御役人中へも申上候云々と申事申置帰候．

〇十二月朔日，巳半刻参舘．老師於居間対面．茶菓被下之．棣園君一昨立本寺荻野家墓門江参詣故越中君之墳前之由，有詩被示．

寒日曨瞳照墓門　蕭騒物色転傷魂

墳前展拝無由起　黙告遺孤能語言　吊叔弟墳

右遺孤ハ福井家ニ預り有之候．新三郎君之事ナリ．アハレヽヽヽ．

〇当月七日，棣園君女子今大路へ重縁ニ而被片付候由．老師男女十六人，某々占之孫男女アリ．子孫スヘテ五十九人アリ云々．コノ内中立売君者ハ老師之末弟ユヘ省キオキテノ算数ナリ云々．嗚呼盛哉．

〇十三日，寒中見舞例之銘味噌一箱進呈．飛馬井圭造迄書状差添候．

〇十五日，午早々当日賀，并寒中見舞参舘．老師於居間対面．過七日夜，今大路家へ孫女片付相整候嘉詞述之．

〇十六日午刻，桂亭君時候見舞入来．折節掃除中倉卒也（48b）．

〇念七，歳暮祝儀小鯛十五枚贈之．飛馬井迄書状添之．但シ当冬小鯛甚高直也．十枚七匁がへ也．

〇大晦日，未半刻，歳暮参舘．老師於居間対面（49a）．

黴毒禁物　酒　肴　餅　麺類　団子　油気　鳥類　ねぎ　そば　其外一切おもきもの

［別紙貼付］　福井玄番権助

（裏表紙見返）